

視 察 報 告

参考資料1

視察先一覧

NO.	視察日	視察校	所在地	設置者	選定理由	スライド
1	2019 7/26	栃木県立宇都宮工業高等学校	栃木県／宇都宮市	公立	専門高校	2
2	2019 7/26	川口市立高等学校	埼玉県／川口市	公立	アクティブラーニング	10
3	2019 8/5	島根県立隠岐島前高校	島根県／海士町	公立	SGH(スーパーグローバルハイスクール指定校)、離島	18
4	2019 8/23	横浜サイエンスフロンティア高等学校	神奈川県／横浜市	公立	SSH(スーパーサイエンスハイスクール指定校)	27
5	2019 8/23	鶴見大学附属中学校・高等学校	神奈川県／横浜市	私立	教科教室型	36
6	2019 8/26	聖光学院中学校高等学校	神奈川県／横浜市	私立	SSH	44
7	2019 8/28	宮城県農業高等学校	宮城県／栗林市	公立	専門高校	55
8	2019 8/28	宮城県迫桜高等学校	宮城県／名取市	公立	総合学科の高校	64
9	2019 9/19	立命館中学校・高等学校	京都府／長岡京市	私立	アクティブラーニング	72
10	2019 9/20	追手門学院高等学校	大阪府／茨木市	私立	アクティブラーニング	83
11	2019 9/20	京都市立堀川高等学校	京都府／京都市	公立	SSH、SGH、複合化	92

1. 栃木県立宇都宮工業高等学校

全日制課程 (4系):機械システム・電気情報システム・建築デザイン・環境建設システム 定時制課程:工業技術科

【所在地】 栃木県宇都宮市雀宮町52番地

【生徒数】 全日制:957 (機械 358 電気情報 239 建築 121 環境建設 239) 定時制:88

【出身中学別生徒数】

<全日制>

宇都宮市 454
 その他県内 497
 国県私立ほか 6

<定時制>

宇都宮市 60
 その他県内 28
 その他 0

【進路】 (H31.3.31現在)

<全日制>

就職 222
 進学 98

<定時制>

就職 15
 進学 7
 その他 3

【職員数】

<全日制>

校長	教頭	事務長	主幹 教諭	教諭	講師	非常勤 講師	実習 教諭	実習 教員	養護 教諭	養護 助教諭	事務 職員	公仕	医師 薬剤師	計
1	2	1	3	58	5	14	7	12	1	1	9	4	6	124

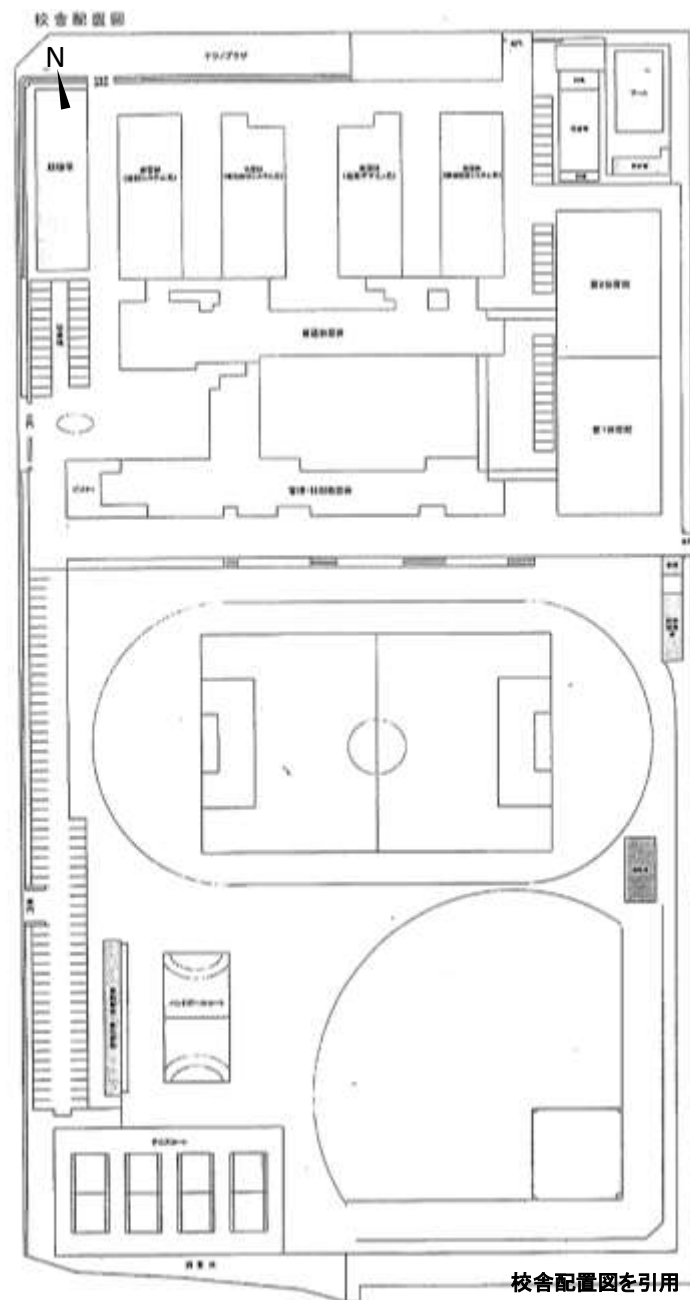
<定時制>

教頭	教諭	講師	非常勤 講師	実習教諭	実習教員	養護教諭	事務職員	学校栄養 士	公仕	医師・薬 剤師	計
1	14	4	10	1	2	1	2	1	1	6	43

【沿革】

大正12年創立。平成23年新たなタイプの工業高校(科学技術高校)として開校。市内中心部から現在の敷地に移転。平成27年SPH(Super Professional High School)指定。平成31年「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定。

【校地平面図】



【特色】

・栃木県産業の将来を担う技術力に対応できる人材の育成

- ① 1年次は「系」に、2年次から系の中で「学科(コース)」に分かれる。
- ② 学校設定科目「科学技術と産業」の設置
- ③ 地域企業、大学、県の研究機関などとの連携
- ④ 最先端の施設・設備の活用

・大学進学等への対応

2年次から進路希望に合わせて、進学類型または専門類型の選択授業を実施。少人数・補習授業等も実施し、個別の対応を行っている。

・SPH事業(H27～29)

科学的でグローバルな視点を持った技術者の育成として、地域の企業や大学との連携を積極的に実施。

・地域との協働による高等学校教育改革推進事業(H31～)

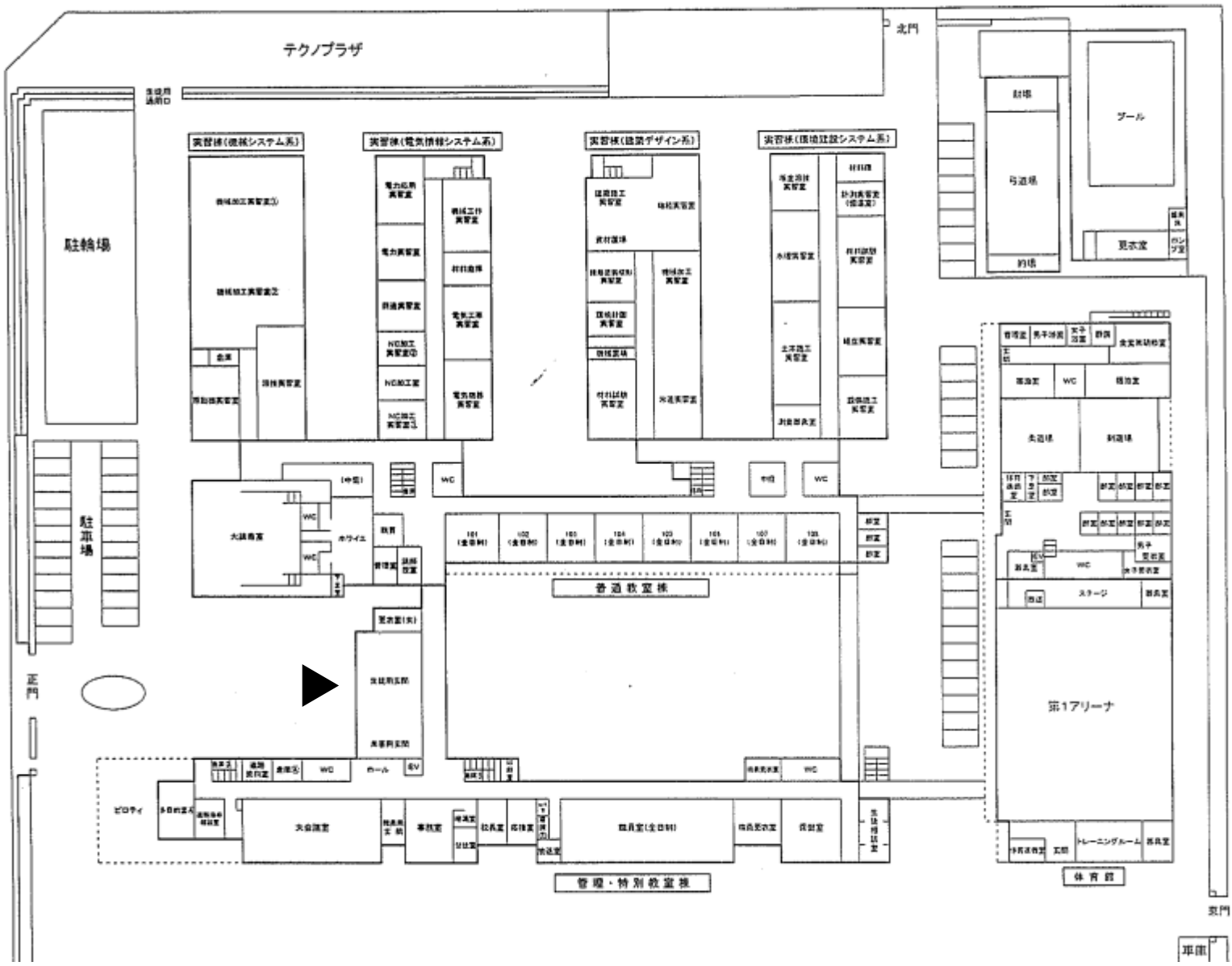
デザイン・システム思考を備え、栃木県に根ざした共創型実践技術者育成のため、産学官の連携事業を実施。



正門

【平面図】

校舎配置図(1階)



校舎配置図を引用

栃木県立宇都宮工業高等学校

【施設の状況】

(校舎)

- 学校の移転に伴い、最寄り駅である雀宮駅前の整備が行われ市立図書館とともに文教ゾーンの立地となっている。全体的に新しくゆとりを感じる広さ、配置計画である。(平成23年9月1日新校舎に移転)
- 廊下のバリアフリー化のため、ロッカーを教室内に設置している。
- 工業高校らしく、配電盤やPSをスケルトンにして生きた教材としている。
- 校内はバリアフリー化されているが、EVは一基のみである。
- インタラクティブコート(芝生のある中庭)は、生徒の憩いや催し物の場所として利用されている。



配電盤の扉にガラスを入れて、中が見えるように工夫されている。

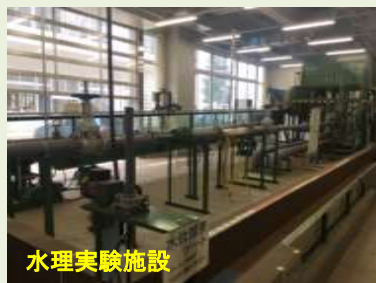
点字ブロックやスロープなどバリアフリー化された校内。



【施設の状況】

(校舎)

- 系ごとの実習棟に最先端の機器や実験設備、測量機器などを設置し、企業と同レベルの環境で実践的な実習を行える。
- 今後、機器類の保守点検や更新に対応していく必要がある。



【施設の状況】

(校舎)

- 実習棟において市の団体などと協力しながら子供向けのイベントを行っている。
- 学校設定科目「科学技術と産業」は、1学年320名を対象に大講義室で実施している。
- 図書室は吹き抜けで、内装に木を使用するなど、気持ちの良い空間となるよう工夫されている。
- 県内の工業関係高校の生徒がものづくりコンテスト大会前などに練習できるよう実習棟の機器使用を許可している。
- 避難所として指定はされていないが、防災拠点としても使用できるよう、警察と連携協定を結んでいる。帰宅困難者の受入れも可能。





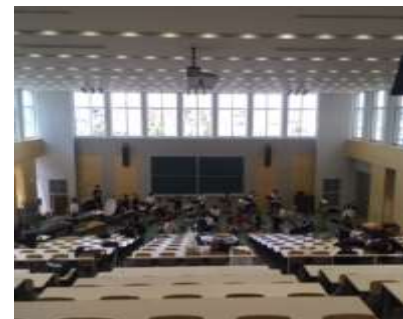
▲エントランス



▲普通教室



▲普通教室前廊下



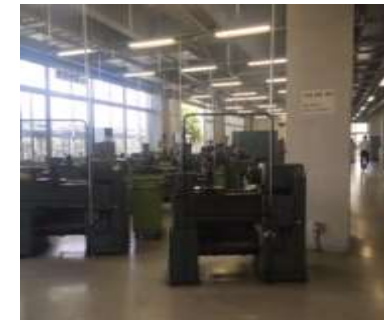
▲大講義室



▲図書室



▲インタラクティブコート



▲実習棟(機械システム系)



▲実習棟(建築システム系)



▲起震装置(建築システム系)



▲工作機械(機械システム系)



▲水理実験装置(環境建設システム系)



▲測量実験装置(環境建設システム系)



▲衛生設備の実習装置
(環境建設システム系)



▲中身の見える分電盤



▲木造実習(建築システム系)



▲電波暗室(電気情報システム系)

2. 川口市立高等学校

全日制課程 (12クラス): 普通科、普通科文理スポーツコース、理数科 定時制課程(3クラス): 総合学科

【所在地】 埼玉県川口市上青木 3-1-40(第1校地) 川口市朝日5-9-18(第2校地)

【生徒数】 全日制:1490 定時制:198

【出身中学別生徒数】

<全日制>

川口市	982
その他県内	498
県外	10

<定時制>

川口市	162
その他	36

【進路】

(H30年度 旧3校卒業生進路状況)

<全日制>

進学	518
就職	27
その他	29

【職員数】

校長	副校長	事務長	中高一 貫準備 室長	教諭 (非常 勤)	養護 教諭	実習 教諭	実習 助手	CIR	ALT	進路 カウンセ ラー	スクー ルカウ ンセー ラー	教育 相談員	司書
1	3	1	1	109 (8)	2	1	5	7	1	2	2	2	4
ICT/AL 支援	事務 職員	校務員	嘱託 講師	合計									
5	11	6	15	186									

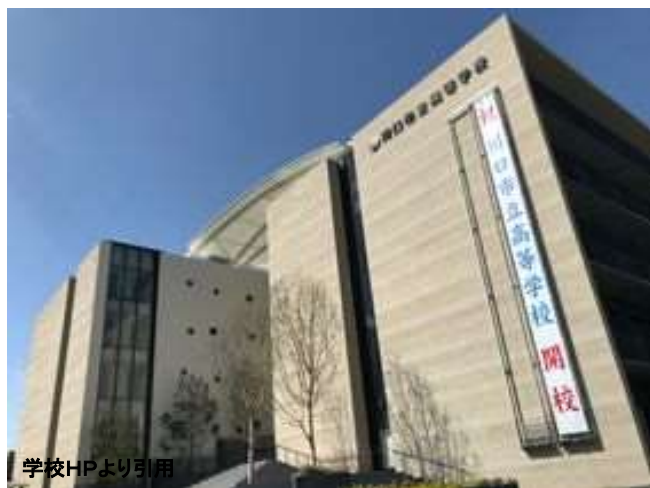
【沿革】

川口市立川口総合高等学校、川口市立県陽高等学校、川口市立川口高等学校の3校を統合し、平成30年4月に川口市立高等学校として開校。(川口総合高等学校の敷地に建設)

【校地平面図】



学校説明資料より引用



学校HPより引用

【特色】

・川口市の教育のリーディング校

・隣接するSKIPシティ(産業振興施設)と連携した施設整備

・多様な学習支援

独自の人材配置

少人数授業の実現、支援員(AL・進路指導・ICT・部活動など)の配置など

大学や民間専門機関との連携

放課後・休業中の学習支援

補講授業の実施、校内の各所に学習スペースを設置
(ラーニングcommons自習室・カフェテリア・commons
ペース・小教室)

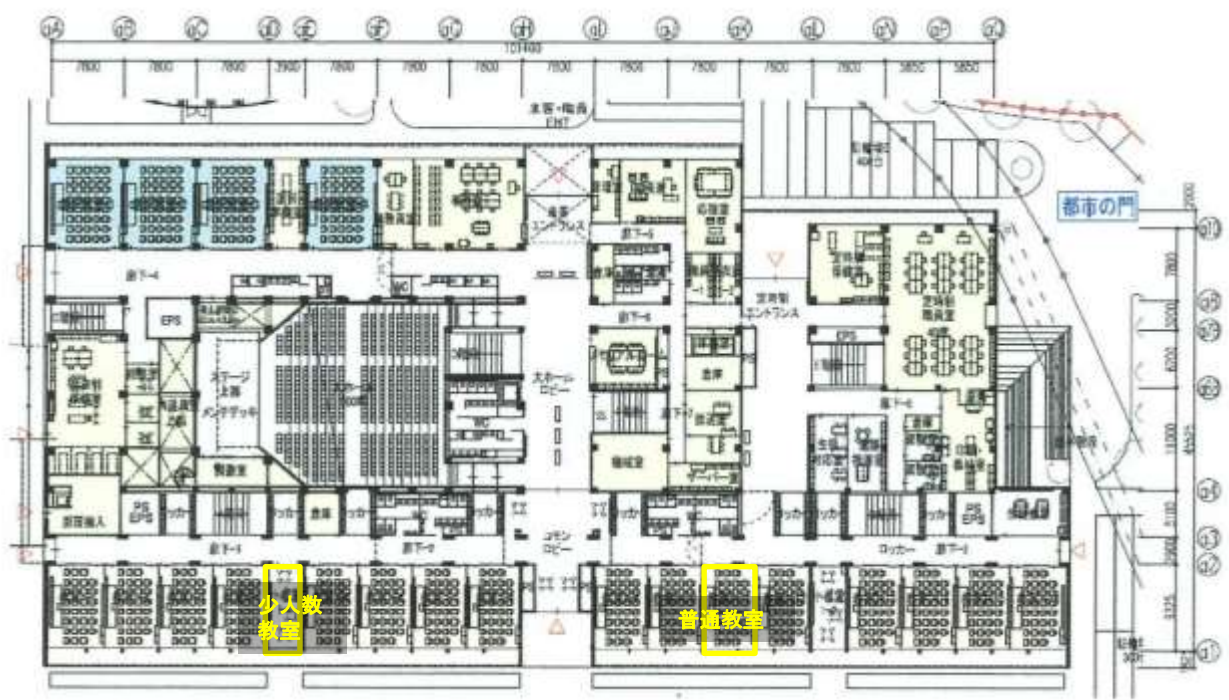
・ICTを活用した学び

ICT整備5か年計画の目標値を満たしている。

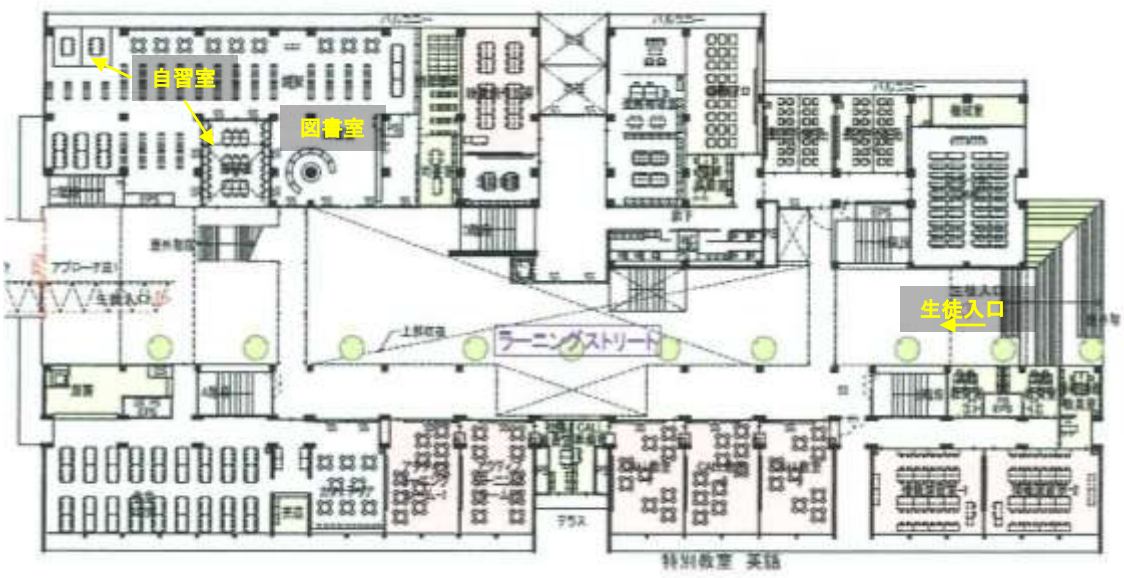
「アクティブ・ラーニングルーム」

空間UI技術を用いた「空間UIルーム」

【平面図】



1階平面図



2階平面図

学校説明資料より引用

【施設の状況】

(校舎)

- ・市立高等学校3校の統合校であることを踏まえ、計画・設計の段階から、各校の教職員へのヒアリングを重ね、設計に反映させている。
- ・敷地内を抜けるラーニングストリートと呼ばれる大通りを計画。大通りを挟む形で、教室棟と特別教室エリアが配置され、膜屋根がかけられている。
- ・地場の鋳物をサインなどにふんだんに使用している。
- ・共用部にゆとりを持たせ、ストリートファニーチャーを設置するなど、遊びの空間を多く取り入れている。
- ・生徒数を踏まえ、1足制にしているため下足室がない。床はゴムシートが貼られ、安全性を確保している。
- ・ラーニングストリートや、そこに面した廊下は、半屋外空間のため、鳥や虫による被害や汚れが課題とを感じる。



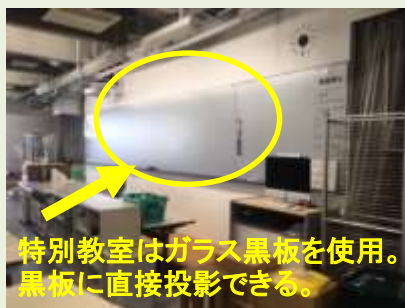
【施設の状況】

(校舎)

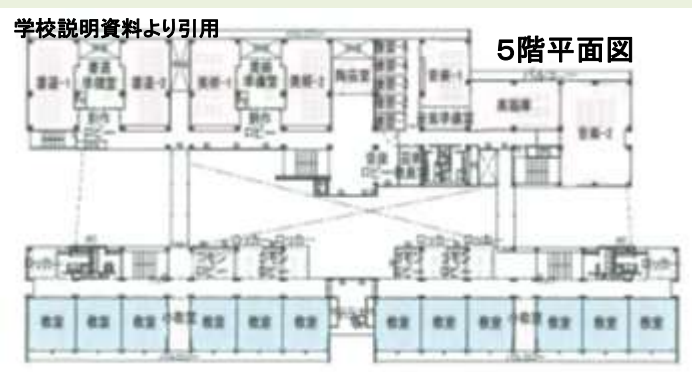
- ・普通教室エリアはICTに対応し、ロッカールームに隣接してコモンロビーと呼ばれる休憩スペースを設け、メリハリのある空間となっている。
- ・特別教室は、壁面をガラス張りとし、展示スペースを設けることでそれぞれの活動のショールーム的な空間になっている。特別教室の黒板は直接映写できるようガラス黒板を使用。
- ・特別教室の脇に専門教員用の小規模な準備室を設けている。
- ・少人数教室やプレゼンテーションルームなど、多様な学習方法に対応できる小空間を設けている。



普通教室



特別教室はガラス黒板を使用。
黒板に直接投影できる。



学校説明資料より引用

5階平面図



プレゼンテーションルーム



特別教室棟壁面



コモンロビー



ロッカールーム

【施設の状況】

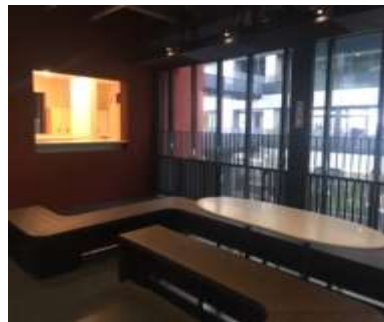
(校舎)

- ・最先端のICT機器を活用できるアクティブラーニングルームや空間UIルームを整備。大学や企業と連携しながら、取組を実施している。
- ・校内各所に自習スペースを設けている。教職員との個別指導や相談場所として使用されるだけでなく、大学生のチューター(無料)や学習メンター(有料)を配置し、指導を受けられるようにしている。
- ・定時制専用のクラスルームを整備し、生徒の居場所を確保している。
- ・公立高校としては充実した食堂・カフェテリアが完備
- ・職員室の廊下側はガラス張りで開放感があり、声がかけやすい環境としている。





▲コモンロビー①



▲コモンロビー②



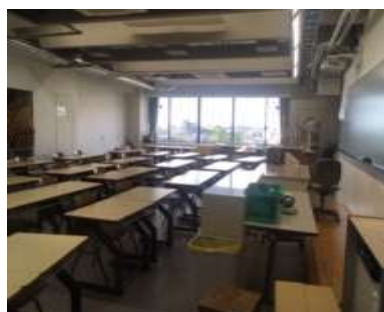
▲プレゼンテーション
ルーム



▲ラーニングコモンズ



▲空間UIルーム



▲美術室



▲理科室



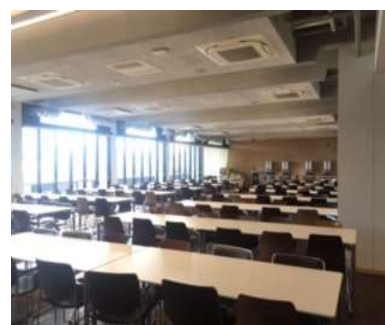
▲普通教室



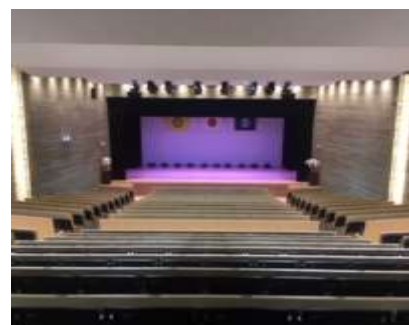
▲特別教室の壁を
展示空間としている



▲家庭科室



▲食堂



▲大ホール



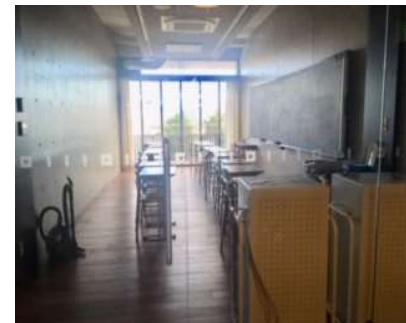
▲自習スペース①



▲自習スペース②



▲自習室



▲少人数教室



▲職員室内部



▲職員室
(ガラス張りの壁)



▲ラーニングストリート



▲鋳物のサイン



▲ロッカールーム

3. 島根県立隠岐島前高等学校

全日制課程(6クラス):普通科

【所在地】 島根県隠岐郡海士町1403番地 (中ノ島)

【生徒数】 普通科 156(R1.9.1)

【出身中学別生徒数】

島内 31

島外(西ノ島、知夫里島) 40

県内本土 13

県外 72

【進路】

(H30年度 卒業生進路状況)

進学 55 (85%)

就職 10 (15%)

【職員数】

校長	教頭	学校経営 補佐官	主幹 教諭	教諭	養護 教諭	講師	非常勤 講師	実習 助手	学校 司書	事務 長	主任	主任 主事	小計
1	1	2	2	14	1	11	4	1	1	1	1	1	41

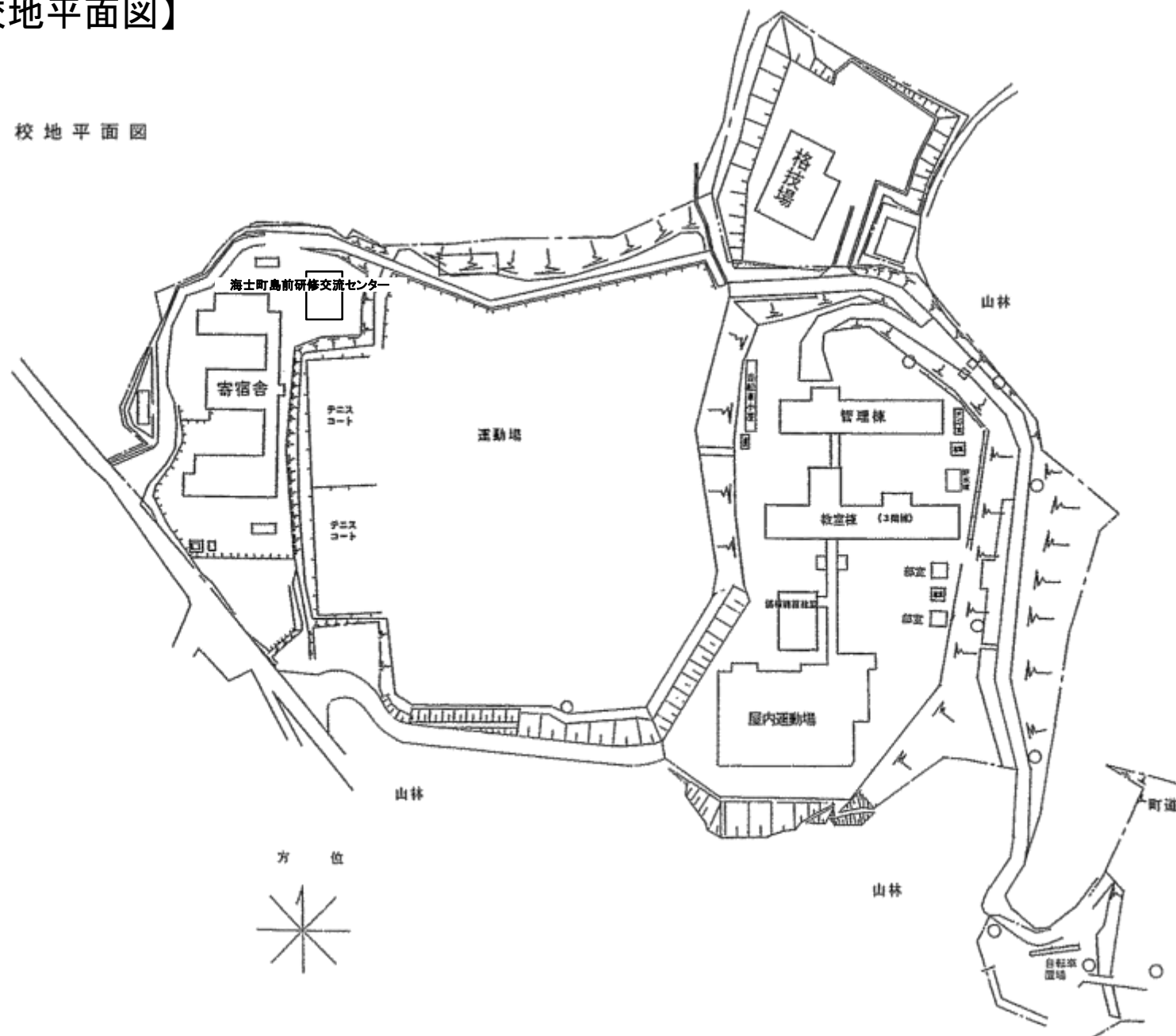
校医	歯科 医	薬剤 師	警備 員	炊事 員	小計	合計
1	1	1	1	9	13	54

【沿革】

昭和30年に島根県立隠岐高等学校島前分校定時制として開校、昭和33年全日制に切り替え。昭和40年に分離独立。昭和48年に現校舎が竣工、平成6年に寄宿舍(鏡浦寮)移転新築。平成26年に研修交流センター(三燈)新築。

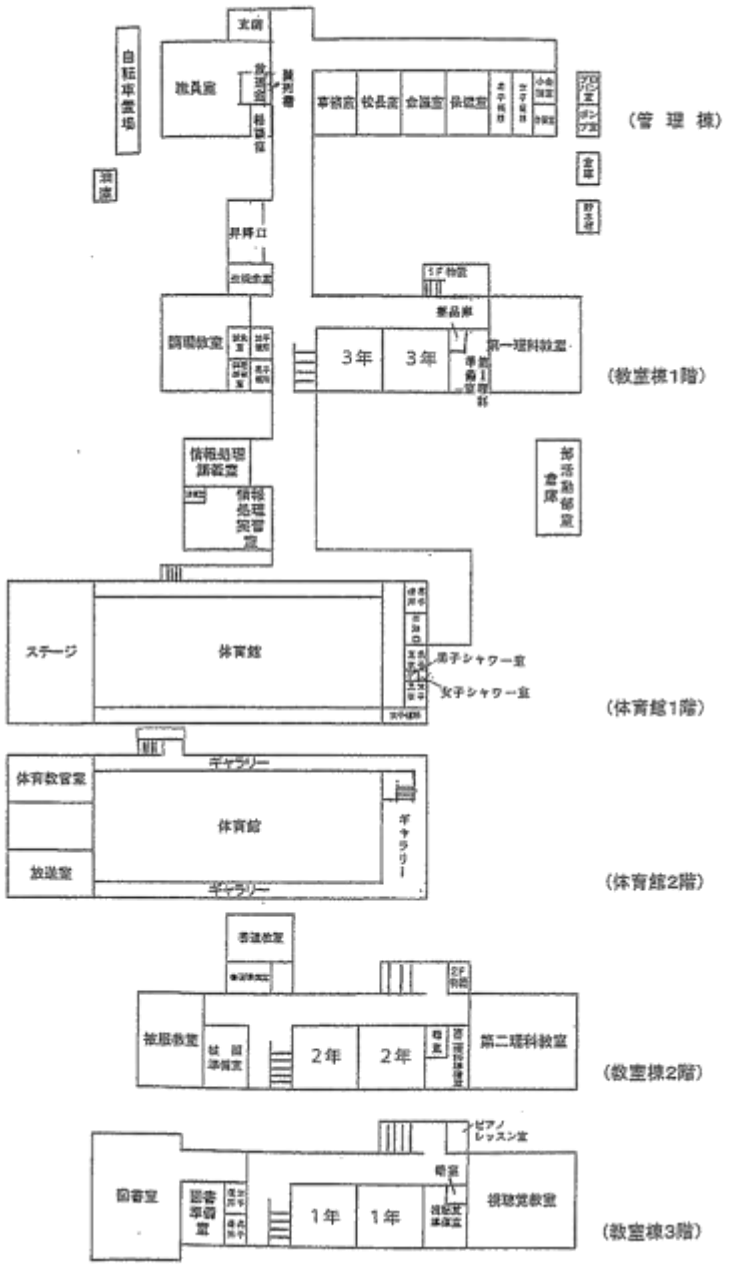
【校地平面図】

校地平面図



【平面図】

校舎平面図



【特色】

- ・全校生徒156人中80人が寄宿舍に居住
- ・地域に根差した教育の実践(総合的な学習の時間「夢探究」等として、島前地域の現状と課題の探究学習、学校設定教科・科目として「地域生活学、地域地球学」を設定。)
- ・キャリア教育の推進
(自己実現と地域・社会貢献を果たす夢の探究「夢探究」、商業、保育・福祉の実学的な専門科目、ブータン、ロシアへの短期研修や短期海外留学生受け入れ等)
- ・学内の約7割の生徒が通う公立塾との連携・協働
(教員と塾講師との情報共有)



【施設の状況】

(校舎)

- ・周囲は海と緑に囲まれており、いずれの室も風光明媚な環境。
- ・全ての普通教室に、電子黒板機能付き短焦点プロジェクター、可動式スクリーン、書画カメラ、無線LANが整備されている。また、タブレット端末を50台整備、数としては生徒1人につき1台には満たないが、ICT環境整備に取り組んでいる。
- ・学校の近くにある学生寮では、調理室と飲食スペースが隣接しており、平日のランチタイムにも活用され、また、寮から学校への配食も行われている。
- ・生徒や職員が静養できる和室を設けている。
- ・学校図書館は、生徒がくつろいで本を読むことができるソファや椅子、また、海が見えるカフェ風の席の設置など、生徒が利用しやすい工夫がなされている。



電子黒板機能付き短焦点プロジェクター、可動式スクリーン、書画カメラを配置した普通教室



タブレット端末を職員室入口に収納、充電



落ち着ける和室の小部屋



緑と海が見える窓側席

大きな開口部のそばにソファを配置し、居心地のいい空間の工夫をした図書室

【施設の状況】

(校舎)

- ・廊下幅には余裕があり、明るく、開放的な空間構成。
- ・高台に建つ学校で、防災避難拠点となっており、避難所であることを示すサインが設置されている。
- ・昭和48年に建てられた鉄筋コンクリート造の校舎を改修しながら使用。
- ・各棟で分割され、教室棟も3層のため、廊下や階段といった移動空間が大きい。
- ・少人数授業を展開する場合に、一部で十分な機材が無い室を使用しなければならない、個別面談等を行う際の室が足りないなど、多様な教育シーンにあわせた運営のためには空間が不足しているという状況がみられる。
- ・教職員のロッカーは職員室近くの廊下にある、教職員は職員室内にある放送室を更衣室として活用もしている。
- ・3階建てであるが、2階部分にトイレがない。
- ・ロッカーが老朽化しており、サイズも現在の生徒の持ち物にあわなくなっている。



【施設の状況】
(寄宿舎)

- 県 鏡浦寮(収容定員:56名)平成6年築:女子47名が居住
 - 町 三燈(収容定員:36名):平成 26年築男子33名が居住
- ※いずれも令和元年度9月現在

- ・どちらの寄宿舎も居住スペース以外に自習できるスペースを設けている。
- ・三燈では、玄関前の階段スペースにより、2階にいても1階の出入りや気配が感じられる。
- ・町設立の研修交流センター(三燈)の設計には、地域の方々も活用できる交流スペースを設けるなど、地域の学校としての工夫がみられる。





▲学校玄関



▲学校正面



▲学校と寄宿舎を結ぶ
道からの眺め



▲普通教室



▲普通教室に取り付けられ
たエアコン



▲図書室。図書室リラックスコーナー



▲屋内運動場



▲理科室



▲調理教室



▲面談会場として活用さ
れた理科準備室



▲保健室



▲休養室として活用された和室



▲階段室



▲職員室



▲洋式トイレ



▲男子トイレ



▲廊下



▲生徒の下足入れ



▲電子黒板機能付きスクリーンと書画カメラ



▲寮正面(三燈)



▲各室入り口(三燈)



▲階段ホールから見る玄関(三燈)



▲玄関ホールの多目的スペース(三燈)



▲自習コーナー①(三燈)



▲自習コーナー②(三燈)



▲台所(三燈)



▲洗面台とトイレ(三燈)



▲女子寮正面(鏡浦寮)



▲寮(左:女子寮、右:男子寮)



▲寮(鏡浦寮)



▲寮居室内②(鏡浦寮)



▲自習室(鏡浦寮)



▲自習室中(鏡浦寮)



▲舎監室(鏡浦寮)



▲食堂(鏡浦寮)

4. 横浜サイエンスフロンティア高等学校

全日制課程(高校18クラス):理数科

【所在地】 神奈川県横浜市鶴見区小野町6番地

【生徒数】 高校 707名 (男子523名 女子184名) (令和元年5月1日現在)

【出身中学別生徒数】

中高一貫教育校

(市内:約70%、市外:約30%)

【進路】 (平成31年3月卒業生)

ほぼ全員が進学

【職員数】

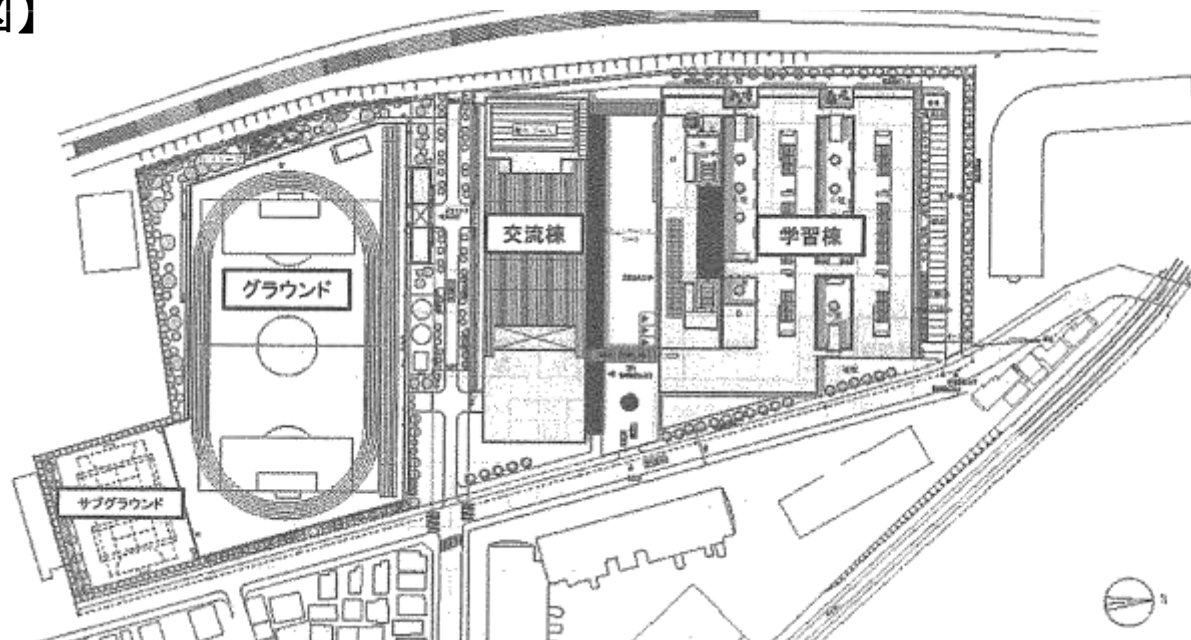
校長	副校長	教諭	養護教諭	非常勤講師	AET※	学校司書	事務長	事務職	嘱託	小計
1	2	75	2	7	2	1	1	3	2	96

※AET:Assistant English Teacher(英語指導助手)

【沿革】

平成12年に市立高等学校再編整備計画が策定され、16年に基本構想、17年に基本計画が策定。平成19年に着工、20年に竣工し、21年に開校。平成22年に文部科学省のSSH の指定を受け、27年に再指定を受ける。また、平成26年に文部科学省のSGHの指定を受ける。

【校地平面図】



【特色】

・サイエンスリテラシー

独自の科目である課題探究型授業「サイエンスリテラシー」を展開、1年次は、研究の基礎となる技術や知識を身に付け、2年次は、いずれかの分野に所属し、個人で設定したテーマについて、研究を行う。3年次はさらに研究を深め、学会やコンテストで成果を発表する。

・スーパーアドバイザー

第一線で活躍する科学者をスーパーアドバイザーとして迎え、特別講義等の開催により、生徒が直接「ほんもの体験」ができる機会を設けている。

・海外研修・国際交流プログラム

2年次に現地学生との交流や研究発表等を行うため、全員がマレーシアを訪問。研修中にはサイエンスリテラシーで進めている研究の成果の英語での発表を行う機会がある。

・地域との関わり

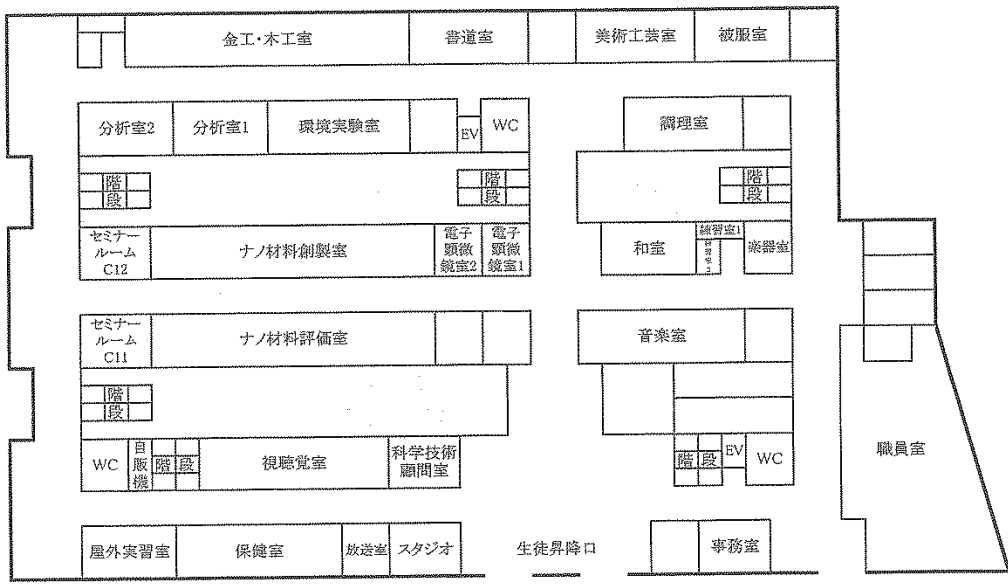
小中学生を招き、近隣企業の協力を得て行うサイエンス教室や学校に設置された天体望遠鏡を用いた天体観測会が行われている。



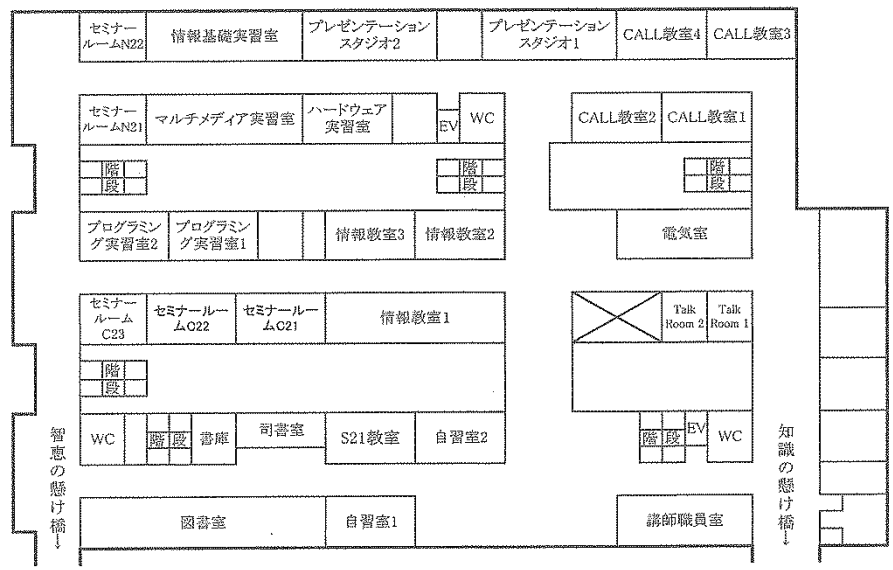
校舎(HPより)

学習棟

1階



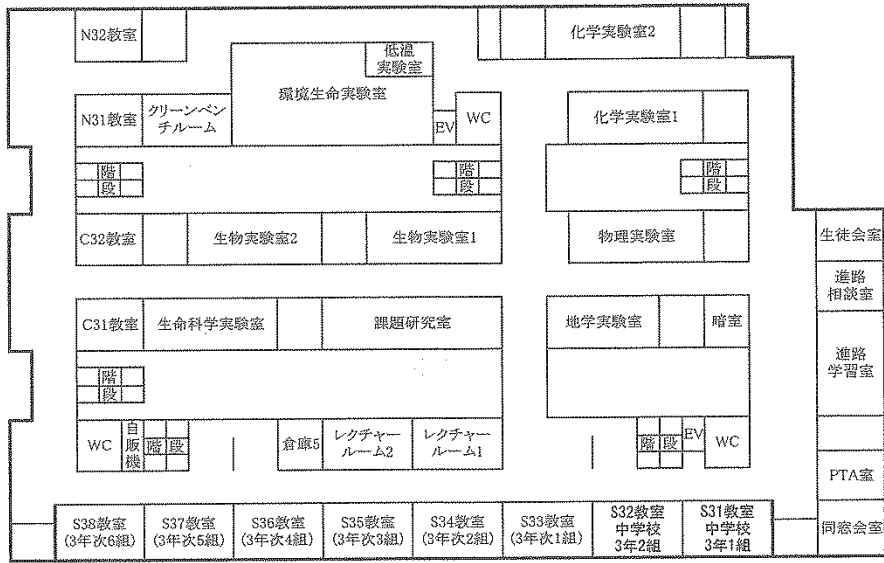
2階



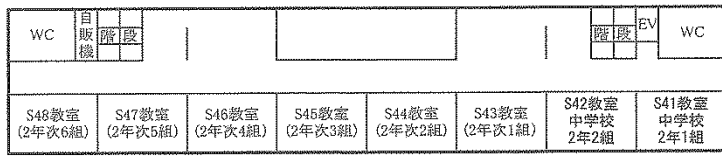
【平面図】

学習棟

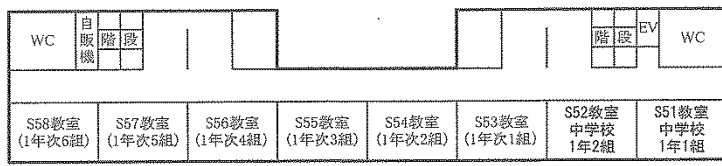
3階



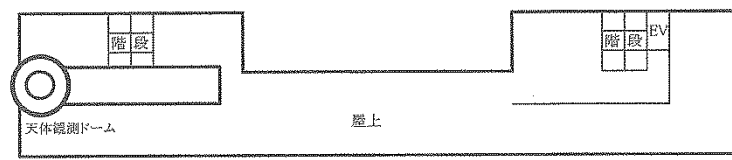
4階



5階

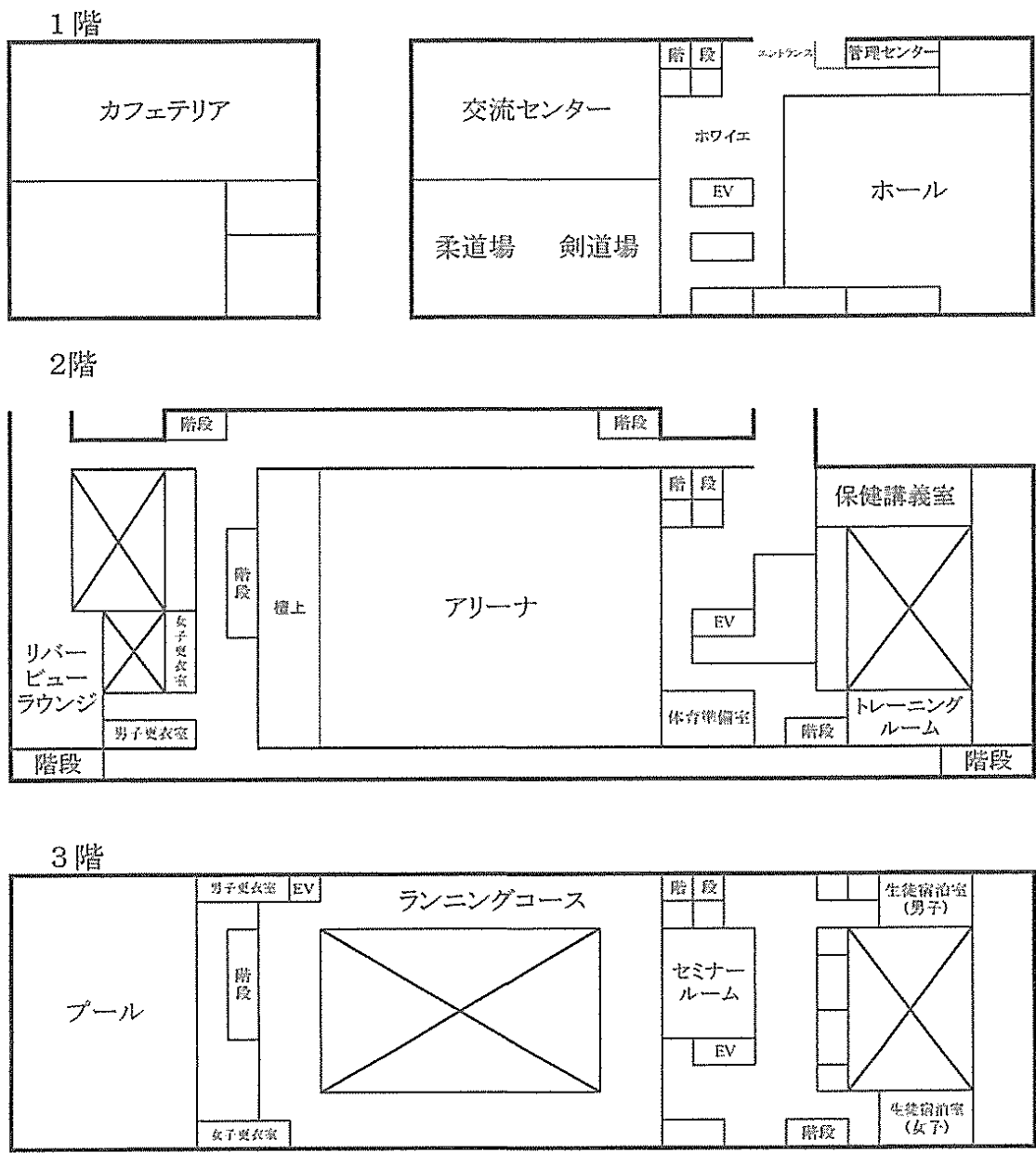


屋上



【平面図】

交流棟



【施設の状況】

(校舎)

- ・校舎はコンクリート打ち放しのすっきりとしたデザインを採用しており、普通教室や実験室のある学習棟とホールやカフェテリアのある交流棟をつなぐ橋が「智恵の懸け橋」と名付けられているなど、科学技術教育に特色のある当校の特徴が施設に活かされている。
- ・科学技術に関する専門性の高い施設・設備を充実させるとともに、グループ学習やディスカッション等を行うことにより、生徒に「主体的・対話的で深い学び」を促す学習環境が整備されるよう設計がなされている。
- ・イメージのつきやすいサインや曲がり角での案内板など、広い校内をわかりやすくする工夫をしている。
- ・先端科学技術各分野の研究機関や大学、企業の研究者等を科学技術顧問として委嘱し、学校運営への協力を得るとともに、協賛企業から実験機器等の提供を受けるなど、限られた予算の中で、教育内容の充実に工夫がなされている。



実験等に使う専門性の高い機器が整備。



【施設の状況】

(校舎)

- ・天体観測など市民への開放講座等が実施するなど、積極的な学校開放がなされるとともに、避難場所に指定され、地域に周知されるなど、地域との連携が図られているが、開放が見込まれる部分に別の出入り口がなく、地域開放等を行う場合に利用者の動線、安全面が課題となる。
- ・吹き抜けや教室廊下側の全面ガラスなど、採光に工夫がなされ、明るい校舎となっている。
- ・コンクリート打ち放しの壁を活かし、壁面に研究成果を掲示している。
- ・特別教室エリアに設けられた教職員ステーションの活用について、教員用スペース等の充実など有効活用方策の検討が望まれる。
- ・館内はwifi整備はないが、職員室は、中・高の連携を深めるため、高校と附属中学校の全て教員が入っているため、ペーパーレス等を行いながらスペースの確保が必要である。また、職員室、研究室、実験室等教員の居場所が複数あることから、教員間の連携の取り方に工夫が求められる。
- ・リバービュースペース等のオープンスペースにあるテーブルの他、枠で区切られ、個々のスペースを確保した自習スペースも整備している。



ガラス面が大きい明るい廊下



研究成果を掲示したコンクリート壁



個々の枠で区切られた自習室



▲校舎正面



▲中庭



▲環境生命実験室①



▲環境生命実験室②



▲研究成果を掲示した壁



▲天体観測ドーム



▲自習室



▲休憩スペース



▲ガラス張りでオープンな図書室



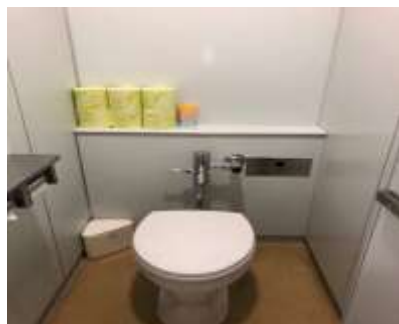
▲職員室



▲廊下



▲廊下のサイン



▲洋式トイレ



▲トイレのサイン



▲各室のサイン



▲階段室



▲3Dプリンター

5. 鶴見大学附属中学校・高等学校

全日制課程(高校15クラス):普通科

【所在地】 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-2-1

【生徒数】 高校656名

【出身中学別生徒数】

附属中学校

(県内:約95.9%、県外:約4.1%)

高校からの入学

(県内:約99%、県外:約1%)

【進路】

(H30年度 卒業生進路状況)

進学 210名(大学174 短大9

専門学校等28)

就職 5名

【職員数】

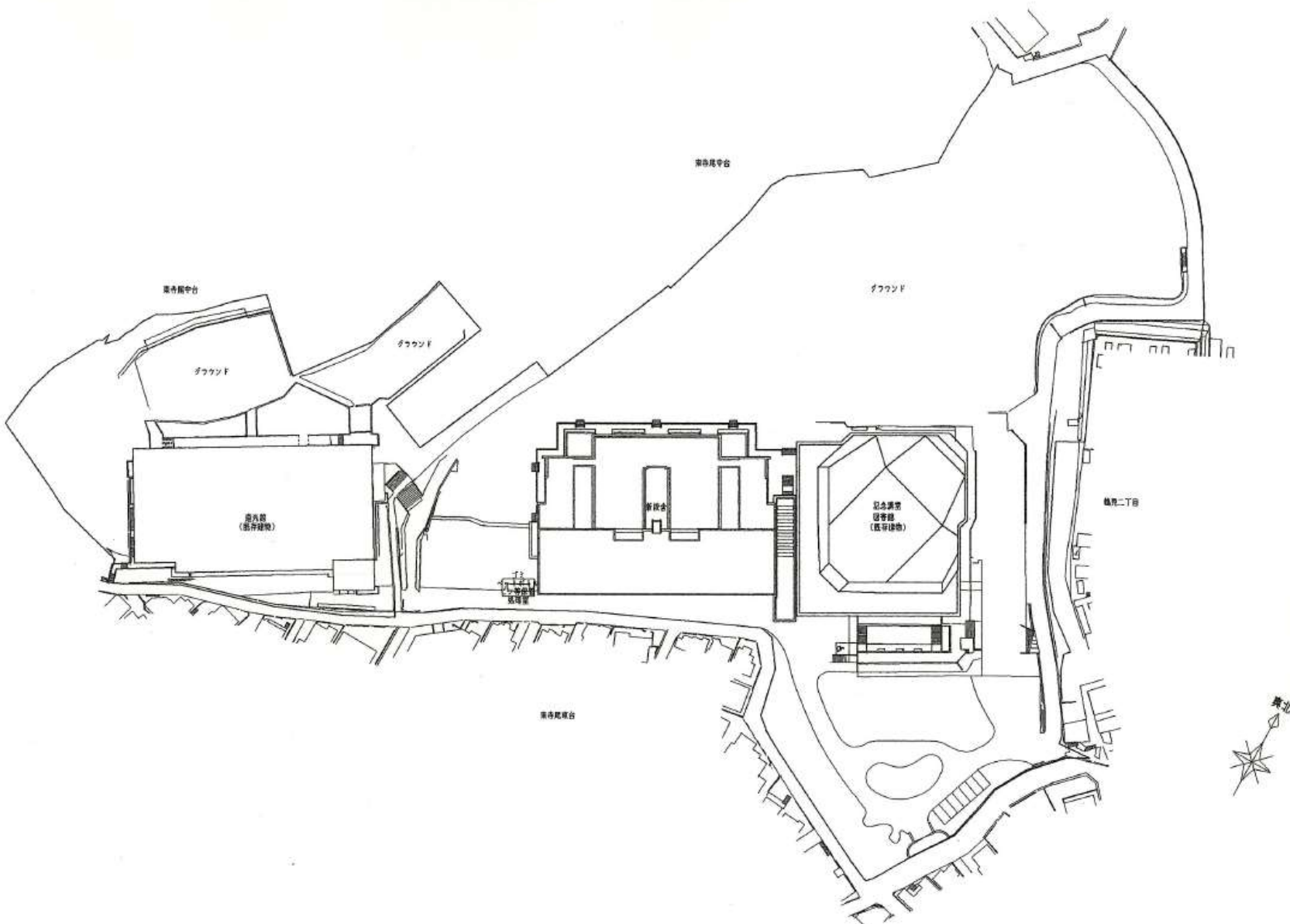
校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	実習助手	学校司書	事務長	事務職員	主任	小計
1	1	副校長兼務	3	48	2	7	24	0	2	1	8	42 教諭内	96

校医	歯科医	薬剤師	警備員	炊事員	小計	合計
1	1	1	委託	0	3	99

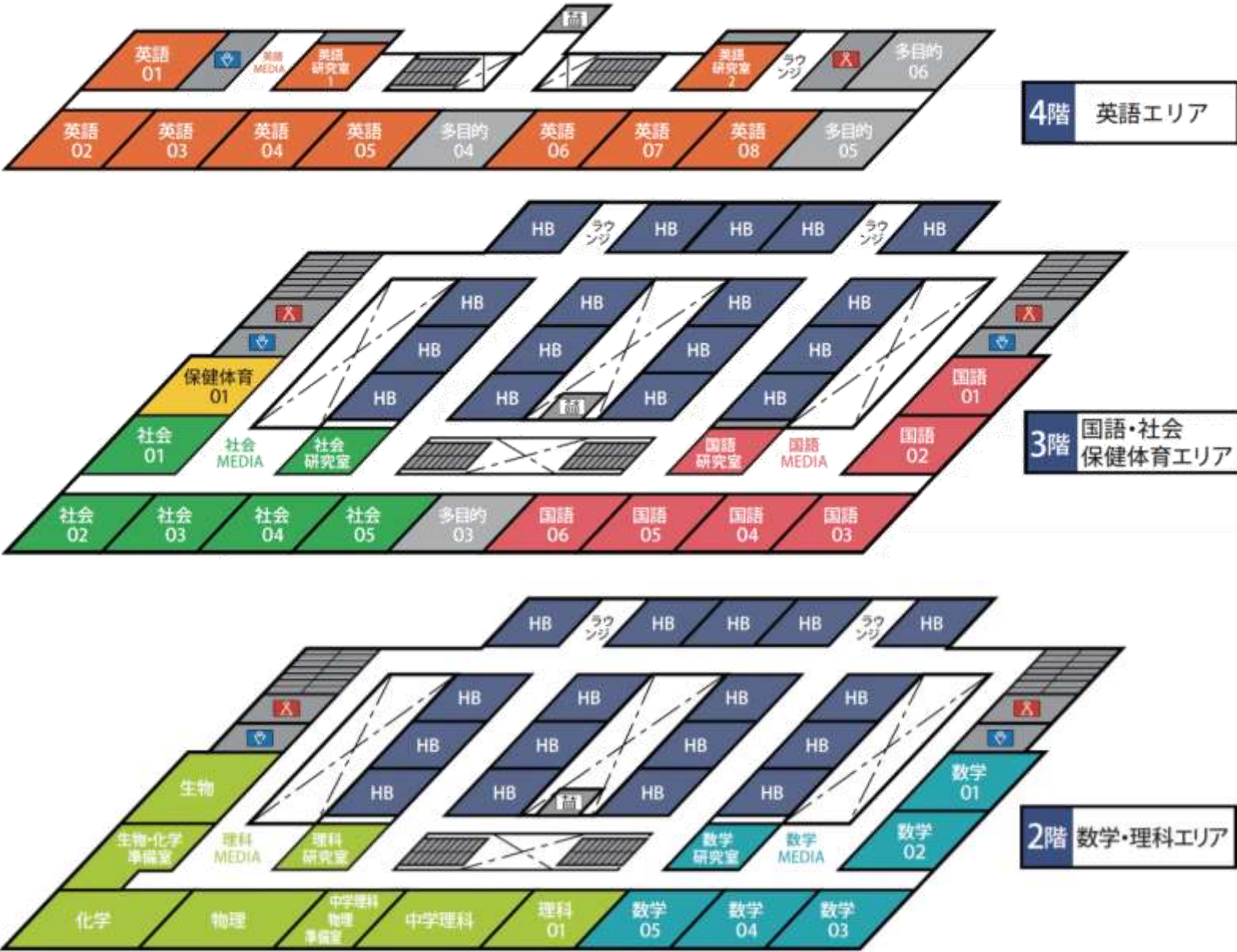
【沿革】

大正13年に女学校として開校、複数回の名称変更や系列校の新設・合併を経て平成19年に系列大学である鶴見大学附属女子中学校・高等学校となる。翌平成20年に共学化、平成21年に教科エリア・ホームベース型校舎が竣工。

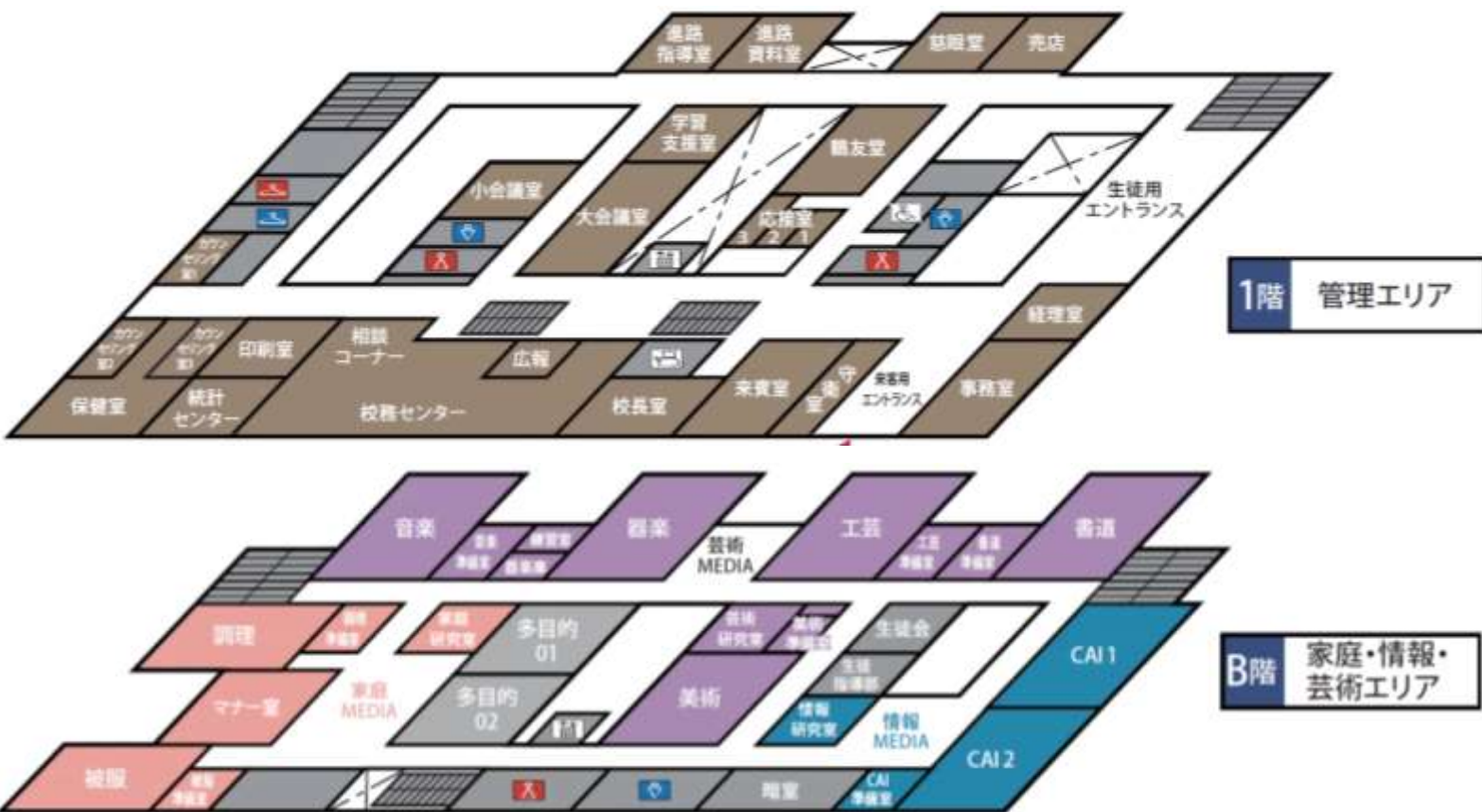
【校地平面図】



【平面図】



【平面图】



【特色】

- ・学力向上、人間形成、国際教育を3つの柱とし、教科教室・ホームベース型の施設で教育を行う。「教科エリア型校舎」により、生徒たちは授業ごとに教室を移動することで、自ら「学びに行く」意識を生み、モチベーションの向上を期待する。また、教科エリアにはそれぞれ「メディアセンター」として、教科に関する展示や資料が整備されている。加えて、教科ごとの教員室もあり、生徒は各教科ごとの深い学びを行いやすい環境を整備している。



【施設の状況】

(校舎)

- ・生徒が自ら学びに向かう態度の育成を目指して、「教科エリア型」の教室配置により施設の整備がなされている。
- ・生徒の円滑な教室移動に資するよう、教科を示す文字や教科ごとに色を変えるなどサインの工夫がなされている。
- ・教室不足など、必要に応じて多目的教室が活用されている。
- ・動線が偏らないよう、三面に階段が設置されている。
- ・段差のある敷地をうまく利用し、地下にも日光が取れるような間取りになっている。
- ・図書館の規模は大きいが、教科室とホームベースとは別棟。
- ・校内にエレベーターと多機能トイレはあるが、生徒の移動教室が多いことから、実際に配慮が必要な生徒が通う場合に数と配置は課題。
- ・大学附属中高であり、大学の施設(グラウンド、図書館)の利用や、大学での体験学習など、大学との連携も行われている。



理科教室エリア(緑色)



英語教室エリア(オレンジ色)



吹き抜けと階段(左:教科教室エリア、右:ホームベースエリア)



エリアごとの色に合わせて、階段室の壁面もわかりやすく色塗りをしている。

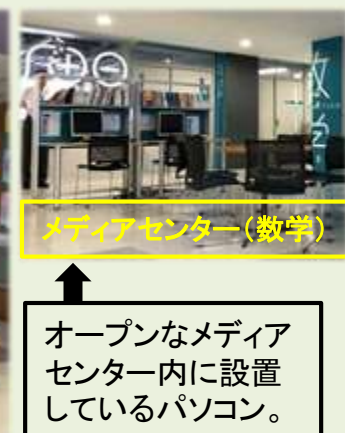


図書室

【施設の状況】

(校舎)

- ・各教科エリアの「メディアセンター」において、自由に閲覧ができる展示物や書籍、パソコン等が整備されており、生徒に興味・関心を持たせる工夫がなされている。
- ・教科内の連携が図られるよう、各教科のエリアに全学年の教員が入る研究室を設置。
- ・生徒は移動短縮を考え、複数授業分の教材が入った荷物を持ち、教科教室では椅子の下等に置く。
- ・全ての教室において、電子黒板機能付き短焦点プロジェクター及びWifiが整備。
- ・教員には1台ずつタブレットが用意され、授業での活用その他、職員会議等でペーパーレスの取り組みが進められており、校務室の狭さを取組でカバーしている。
- ・生徒は個人のID・パスワードを所有しており、1人1人が自分用のIDを活用して端末にログインできる。(端末は校内に70台)
- ・入学人数が年により異なり、ホームベースにおいて、同フロアに異なる学年が入り込む特徴により、異学年交流が生まれている。
- ・教科教室型として、学級活動が希薄にならないよう、ホームベースに生徒全員が座れる机・椅子を用意し、カバン等の収納用ロッカーも備えている。クラス全員で昼食がとれるほどのスペースがある。





▲校舎側面



▲左棟:教科教室・ホームベース、右棟:ホール・図書室



▲廊下(ホームベース)



▲廊下(ホームベース前にベンチ)



▲ホームベース



▲サイン(左:社会、右:ホームベース)



▲サイン(理科)



▲サイン(国語)



▲サイン(芸術)



▲サイン(ホームベース)



▲サイン(数学)



▲サイン(家庭課室)



▲サイン(トイレ)



▲教科教室(数学)



▲教科教室(英語)



▲メディアセンター(数学)



▲メディアセンター(情報)



▲メディアセンター(家庭)



▲講堂(大ホール)



▲視聴覚室(小ホール)



▲図書室



▲図書室



▲和室



▲職員室



▲トイレ

6. 聖光学院中学校高等学校

全日制課程(高校17クラス):普通科

【所在地】 神奈川県横浜市中区滝之上100

【生徒数】 中学682名 高校684名 計1366名

【出身中学別生徒数】

中高一貫校

(県内:約7割、県外:約3割)

【進路】

進学 188名

就職 0名

その他 43名

【職員数】

学院長	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	看護師	講師	事務長	事務職	小計
1	1	1	1	66	1	1	19	1	18	110

校医	歯科医	薬剤師	眼科医	耳鼻科医	精神科医	カウンセラー	小計	合計
2	1	1	1	1	1	1	7	117

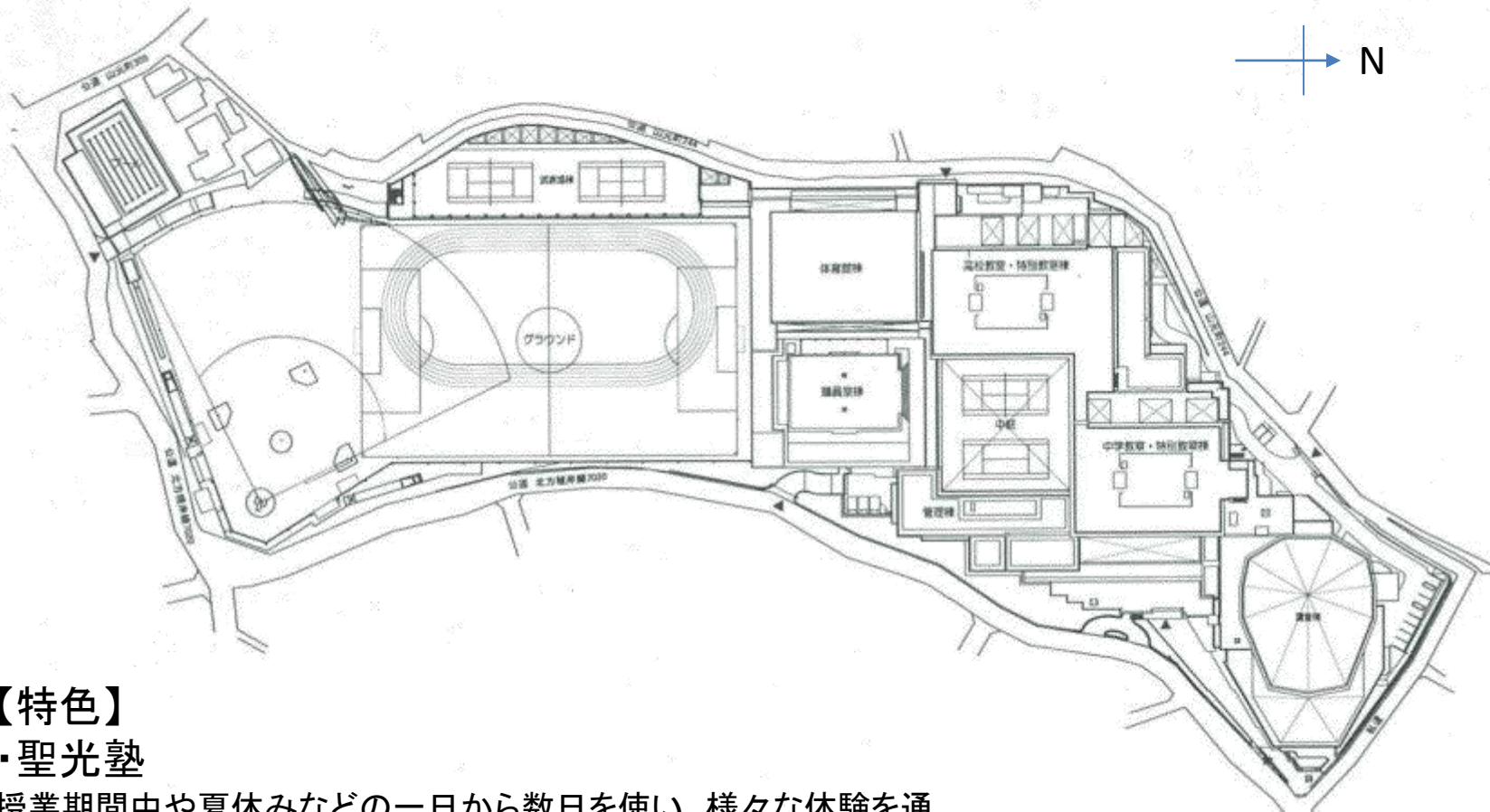
※ 食堂・警備・購買・清掃については、外部業者に委託

【沿革】

昭和33年に聖光学院中学校が創立、昭和36年に聖光学院高等学校が創立。

新校舎は、平成21年にアドバイザー2名、教員3名、事務職員1名からなる「新校舎建設プロジェクト事務局(翌年、聖光学院新校舎整備計画建築委員会に名称変更)」を発足して検討を進め、平成23年5月から3年半かけて施設を完成させ、平成26年12月に竣工。平成29年文部科学省のSSHの指定を受ける。

【校地平面図】



【特色】

・聖光塾

授業期間中や夏休みなどの一日から数日を使い、様々な体験を通して教養を高める講座を開設。アカデミックな内容や「生きる力」をはぐくむ体験的な学習を実現している。

・探究活動

生徒自身で課題を見つけ、文系理系、教科をまたぐ視点から研究を行ってチームまたは個人で問題解決を行うことを目指す（PBL授業）。（高1、2は週1時間）

・国際教育

生徒一人ずつが持つ端末を活用したマンツーマン英会話（オンライン・中2、3年）や海外大学の学生を講師として招く研修会を行う。



校舎

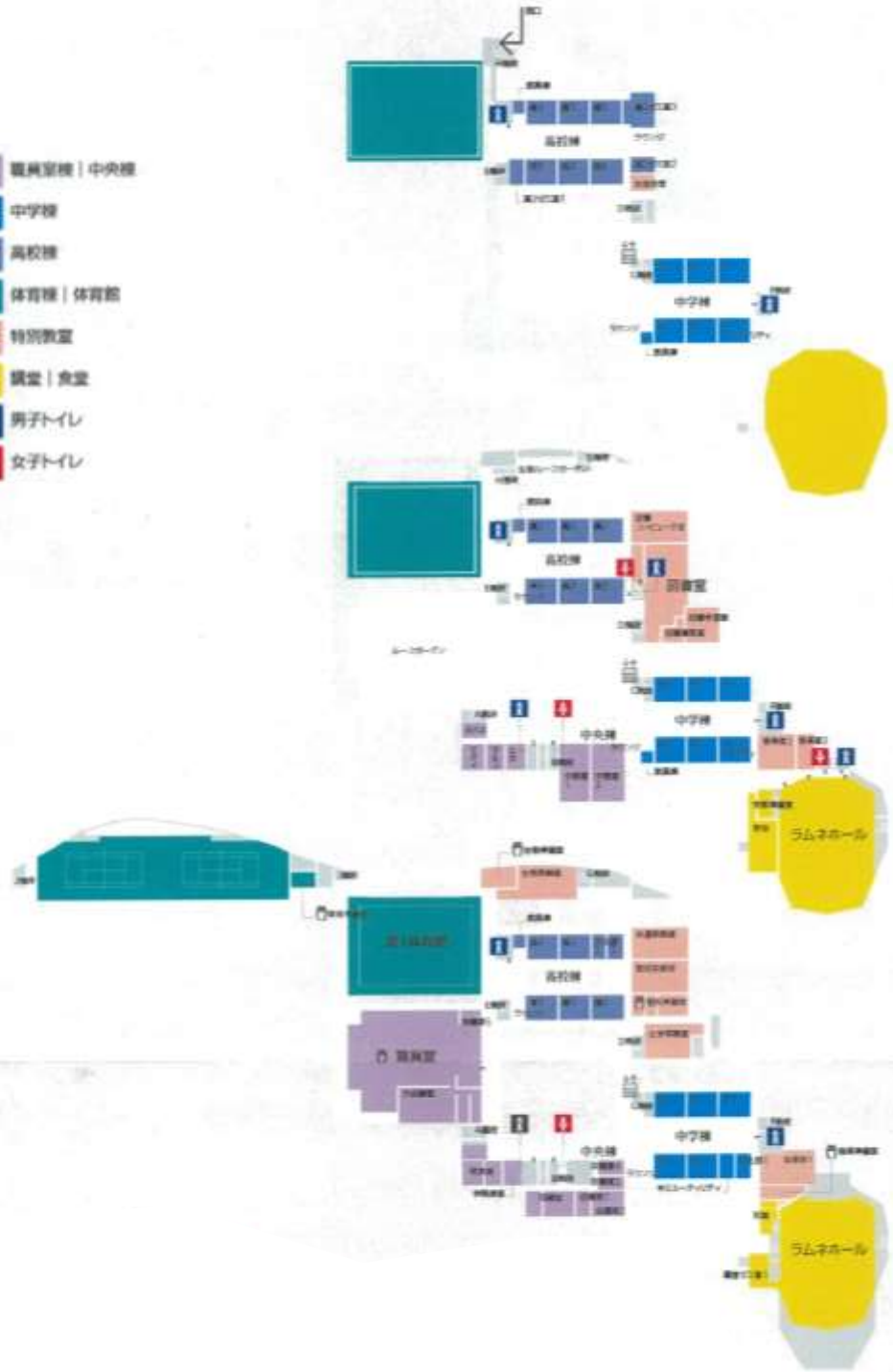
【平面図】

4F

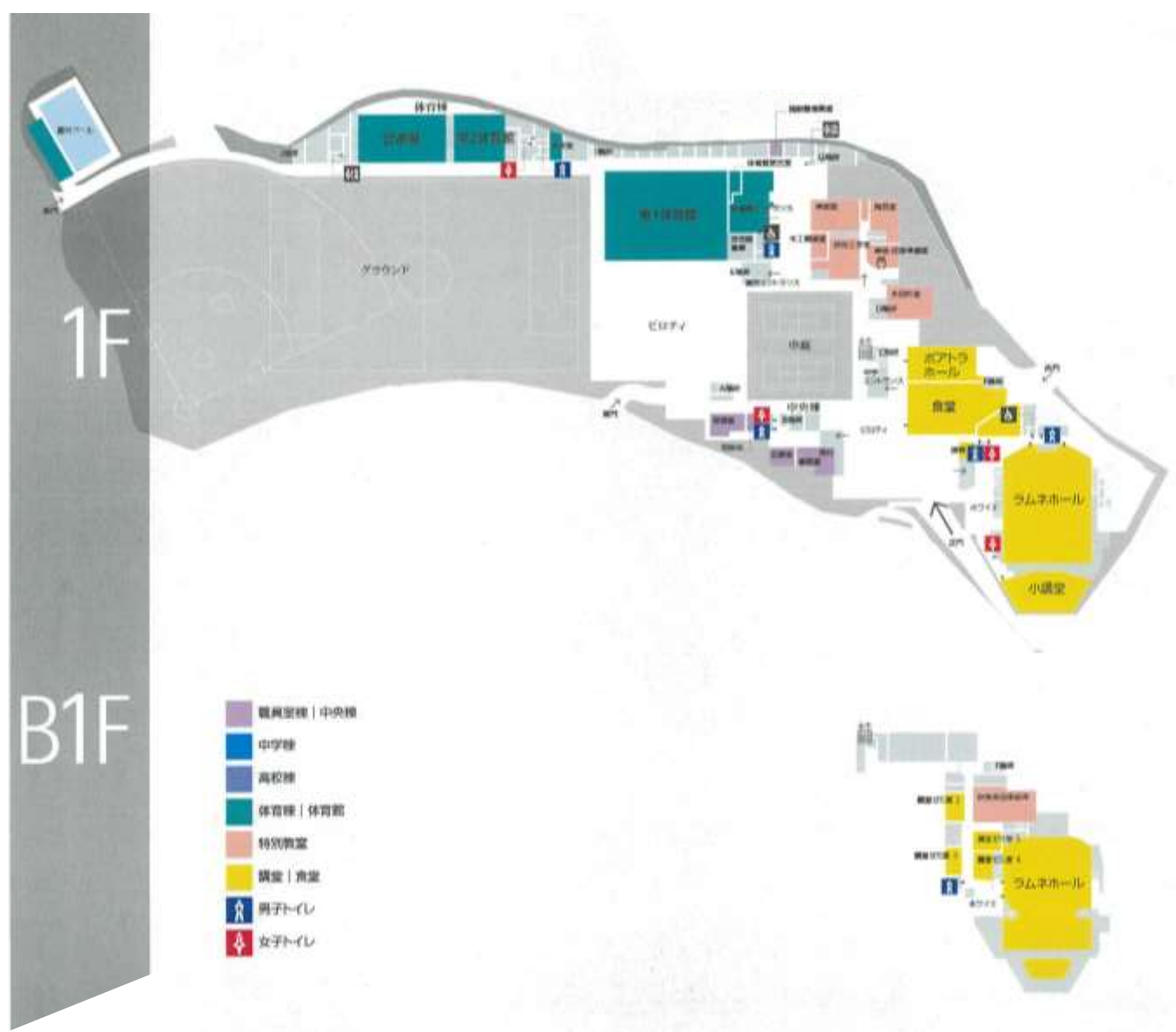
3F

2F

- 職員室棟 | 中央棟
- 中学棟
- 高校棟
- 体育棟 | 体育館
- 特別教室
- 講堂 | 食堂
- 男子トイレ
- 女子トイレ



【平面図】



【施設の状況】

(設計に当たって)

・新校舎の建設に当たり、発注先と十分な話し合いや交渉ができる専門家を雇い、校内に建築委員会を設置し、学校の職員が施設を使う立場から教室の配置や生徒の動線等を工夫・検討し、それらを設計に反映させている。

(配置・外観・屋外環境について)

・中庭やピロティといった多目的スペースを中央に置いた回廊型の校舎で、複数の動線を確保しながら、スムーズな移動を可能にするとともに、校舎に囲まれた中庭とすることにより遮音性を確保し、学校行事や文化祭等で使用する際の近隣への防音対策になっている。

・卓越風を上手に取り入れた設計で、暑い夏でも風が通るよう、ガラス戸の配置が工夫されている。また、ピロティにも、太陽光が届くよう設計されている。

・大地震の際に、壁が落下しないよう校舎の外壁にはレンガが使用されているとともに、ガラスが落下しないよう広いベランダが設けられており、安全面の工夫がなされている。

・校庭は人工芝が敷かれており、近隣への砂埃飛散防止の配慮がなされている。

・敷地の形状からグラウンドやプールへの移動距離を感じる。



中庭

3階ガラス張りの廊下の向こう側は屋上庭園であり、風と光を通す

人工芝の校庭。ボールを受けるネットは灰色とし、景観に配慮している。



校庭

【施設の状況】

(校舎)

- ・教室の壁は、工事により撤去及び設置が可能としており、将来、教室配置の変更にも対応ができるなど、柔軟で拡張性の高い設計となっている。
- ・保護者のみならず、卒業生との交流を意識した施設整備が行われている。
- ・食堂の運営費を賄うために、保護者や卒業生の懇親会を開催できるスペースを確保している。
- ・ホールやカフェテリアなど、利用頻度の低いものの外部利用を可能にするため、通常学校教育に利用する部分とは施錠して区切れる設計としている。
- ・個人アドレスの提供など、卒業した後も学校とのつながりを意識した設備となっている。

食堂と
間仕切り壁で
隣接する
ホール



ポアトラホール



ラムネホール・ホワイエ

一般用入口

生徒の動線



食堂



ラムネ
ホール
と校舎を
つなぐ
扉は施
錠可能。



ラムネホール

【施設の状況】

(校舎)

- ・授業や諸連絡等に活用される1人1台のタブレット使用のためのWiFi環境に加え、電子黒板機能付き短焦点プロジェクターとスクリーンを設置している。
- ・効率的・効果的教育を行いやすい多様なサイズの教室を備えている。
- ・各学年6教室が3つずつ向き合う構造であり、その間の空間に生徒用のロッカーを配することで、クラスの違う生徒との交流が生まれやすい構造になっている。



電子黒板機能付き短焦点プロジェクターとスクリーン



教室

生徒同士の交流

廊下

教室



収容:20名程度

小教室



収容:40名程度

教室



収容:250名程度

大教室

【施設の状況】

(校舎)

- ・職員室はゆとりがあり、教員と生徒のコミュニケーションが取りやすくなっている。
- ・中学・高校の教員が同じ職員室に集まる一方で、教員がグループで集まって会議を行いやすい会議室を複数設置している。また、オープンなもの、クローズドなものなど、教員の仕事内容によって、使い分けができるよう工夫されている。
- ・職員室には独自の電源が確保されており、災害の際にも業務が継続できるよう対策がなされている。
- ・会議室や打ち合わせのスペースのほか、教職員用の休憩室も付設されている。





▲ホール・聖堂玄関



▲エントランス



▲校庭



▲屋上庭園



▲屋内運動場



▲下足入れ



▲教室間に設置された
生徒のロッカー



▲普通教室



▲普通教室に付随するベランダ。普通教室に付随するベランダからは鐘楼が見える。



▲中規模教室



▲生物実験室



▲化学実験室



▲共通実験室



▲実験室のテーブル下の水道



▲印刷室



▲職員室。職員室から校庭を臨む。



▲職員室前廊下。職員室前のベンチ



▲食堂と食堂に隣接したポアトラホール



▲生徒のラウンジ



▲階段室



▲ラ・ムネ・ホール



▲聖堂



▲洋式トイレ

7. 宮城県農業高等学校

全日制課程：農業・園芸科、生活科、食品化学科、農業機械科

【所在地】 宮城県名取市高館吉田字吉合66番地

【生徒数】 全日制：695（農業・園芸 346 生活 111 食品化学 119 農業機械 119）

【出身中学別生徒数】

<全日制>

名取市	169
仙台市	435
その他県内	89
県外	2

【進路】（H31.3.31現在）

<全日制>

就職	141
進学	86

【職員数】

<全日制>

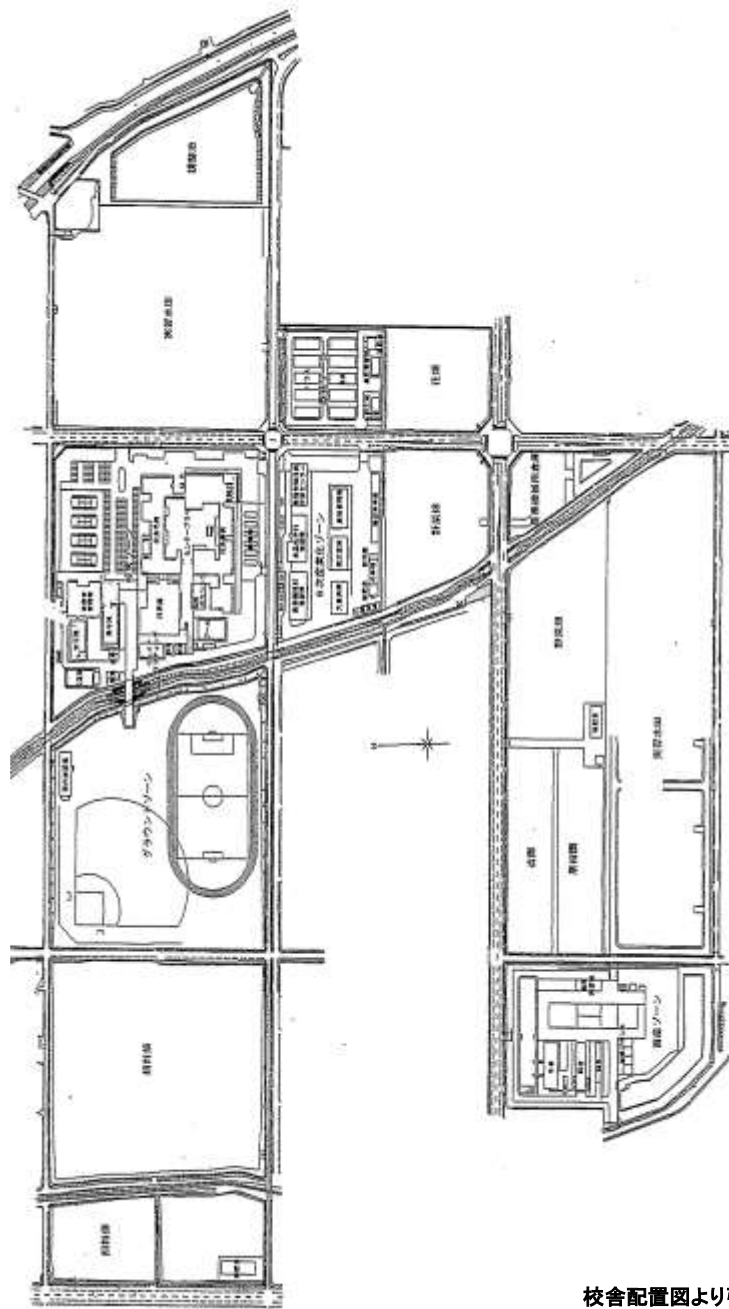
校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	代替養護	講師	非常勤講師	SC、SSW	実習教諭	実習講師	実習助手等	寄宿指導員	栄養教諭	栄養技師
1	2	2	46	1	1	4	5	2	2	7	10	2	1	1

事務職員	学校司書	技師（巡視）	技師（庁務）	技師（農場業務）	臨時職員	パート職員	合計
6	1	2	2	2	4	7	111

【沿革】

明治18年に宮城農学校として創立。平成23年3月の東日本大震災により学校が被災し校舎が使用不能となり、5月から3校に分散し学校再開。同年9月に宮城県農業・園芸総合研究所内に仮設校舎完成。平成26年に「スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）」に指定される。平成30年3月新校舎が完成し学校の移転が完了。

【配置図】



校舎配置図より引用

【特色】

・グローバルアグリハイスクール

- ・グローバル教育で人材を育てる
- ・地域社会・産業に寄与する
- ・地域交流の拠点となる
- ・地域防災を推進する
- ・地球環境を守り創造する

・SPH事業(H26～H28)

「日本最古の農業高校 震災・津波から復活の取り組み！地域で活躍する就農者増加に向けて」を研究テーマとして、就農者増加を目指して事業を実施。

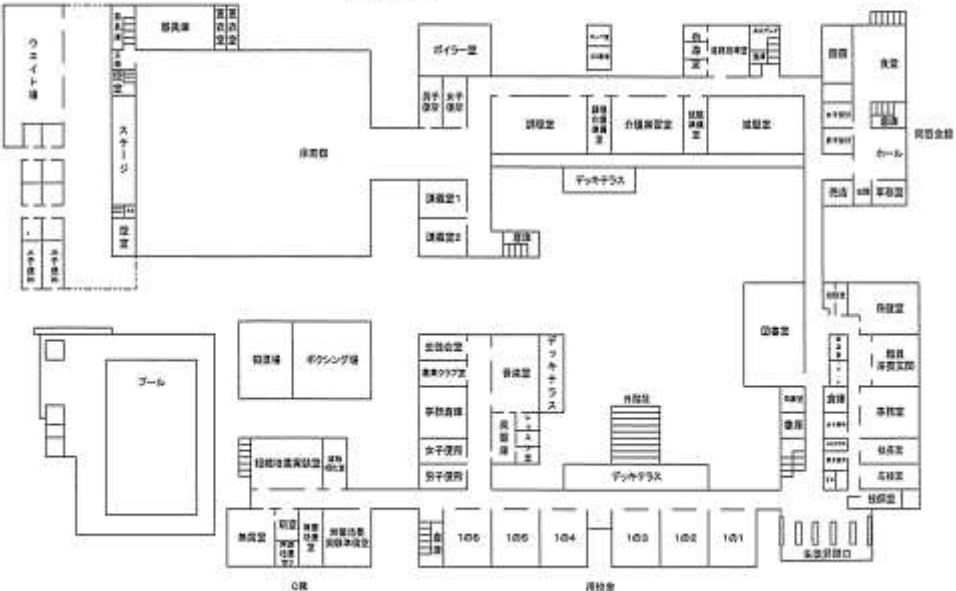
・グローバル化への対応

農業のグローバル化に対応するため、農産物の生産工程管理を行うGAPやHACCAPへの対応が進められている。また、スマート農業に対応した関係機関との連携も積極的に図られている。



中庭

校舎 1F



校舎 2F



校舎案内図より引用

【施設の状況】

(校舎)

- ・校舎等は2階建てで整備されており、非常に開放的な環境となっている。囲障も低いフェンスとするなど、施設全体が地域の方々も含め人が集まりやすい公園のような雰囲気で整備されている。
- ・廊下の天井は木のルーバーで整備されており、配線や配管等のメンテナンスが行いやすいよう工夫されている。
- ・普通教室と特別教室にプロジェクターが設置されておりWi-Fi環境も整備されている。生徒用のタブレット端末は21台が導入されたばかりであるが、今後の充実が期待される。
- ・生徒用ロッカーが廊下に確保されているため、各教室の机回りはすっきりしており、ゆとりが感じられた。また、ロッカーや消火栓塔等は廊下の壁の一体として整備されているため、廊下に出っ張った部分はなく、安全性・快適性が確保されている。
- ・校舎は2階建てであるがエレベーターが設置されており、バリアフリーに対応した整備がなされている。



プロジェクターを活用した授業



エレベーター



廊下の壁と一体で整備された生徒用ロッカー



メンテナンスを考慮した廊下の天井

【施設の状況】

(実習棟等)

- ・実習棟は、農業のグローバル化に対応するため、農畜産物の生産工程管理においてGAPやHACCAPに対応できるよう専門性の高い施設設備の整備がなされている。
- ・実習棟には講義を行える教室も配置されており、講義と実習を織り交ぜた授業が行えるよう工夫されてる。
- ・また、生徒が作った農産物を一般向けに販売するスペースも整備する等、農業の6次産業化について一貫して学べる環境が整備されるとともに、実社会と繋がった主体的・対話的で深い学びを促すよう工夫されている。
- ・農場も含め広大な敷地に整備されているため、施設設備の日常的な維持管理に係る労力が大きいと感じた。



溶接実習室



機械工作室



内燃機関実習室

2階に講義室が配置されている。



生産工程の管理なされた農産加工室



6次産業化学習スペース

【施設の状況】

(寄宿舎)

- ・寄宿舎は、通年入寮の生徒のほか、学科ごとに一定期間の義務入寮を実施し、全ての生徒が寮生活を体験できるよう工夫されている。
- ・寄宿舎は、個人のスペースと共有スペースを明確にされており、プライバシーの確保と寮生同士のコミュニケーションを両立させる配置計画となっている。
- ・整備前は男子生徒の方が多かったため寮の定員を男子64名、女子56名としたが、整備後は女子生徒の入学生が増加傾向にあり女子寮が不足気味になっている。



寄宿舎外観



食堂



寮生全員が集まれるホール



寮生の部屋(4人部屋)



風呂場



個室のシャワーブース



▲普通教室



▲普通教室の扉



▲農業先端技術学習
センター



▲農業実習ビニールハウ
ス



▲溶接実習室



▲内熱機関実習室



▲介護実習室



▲機械工作室



▲農産加工室



▲無菌培養室



▲無菌室



▲職員室



▲職員室(休憩スペース)



▲食堂



▲体育館



▲大講義室



▲調理室



▲中庭



▲昇降口



▲壁に埋め込まれたロッカ



▲廊下



▲寄宿舍



▲寄宿舍集会室



▲寄宿舍食堂



▲ 寄宿舍部屋



▲ 寄宿舍シャワールーム



▲ 寄宿舍風呂

8. 宮城県迫桜高等学校

全日制課程 総合学科(6系列): 人文国際、自然科学、福祉教養、情報科学、エンジニアリング、アグリビジネス

【所在地】 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184番地

【生徒数】 全日制: 533 (1年 160 2年 180 3年 193)

【出身中学別生徒数】

<全日制>

栗原市	327
その他県内	173
県外	33

【進路】 (H31.3.29現在)

<全日制>

就職	81
進学	94
その他	7

【職員数】

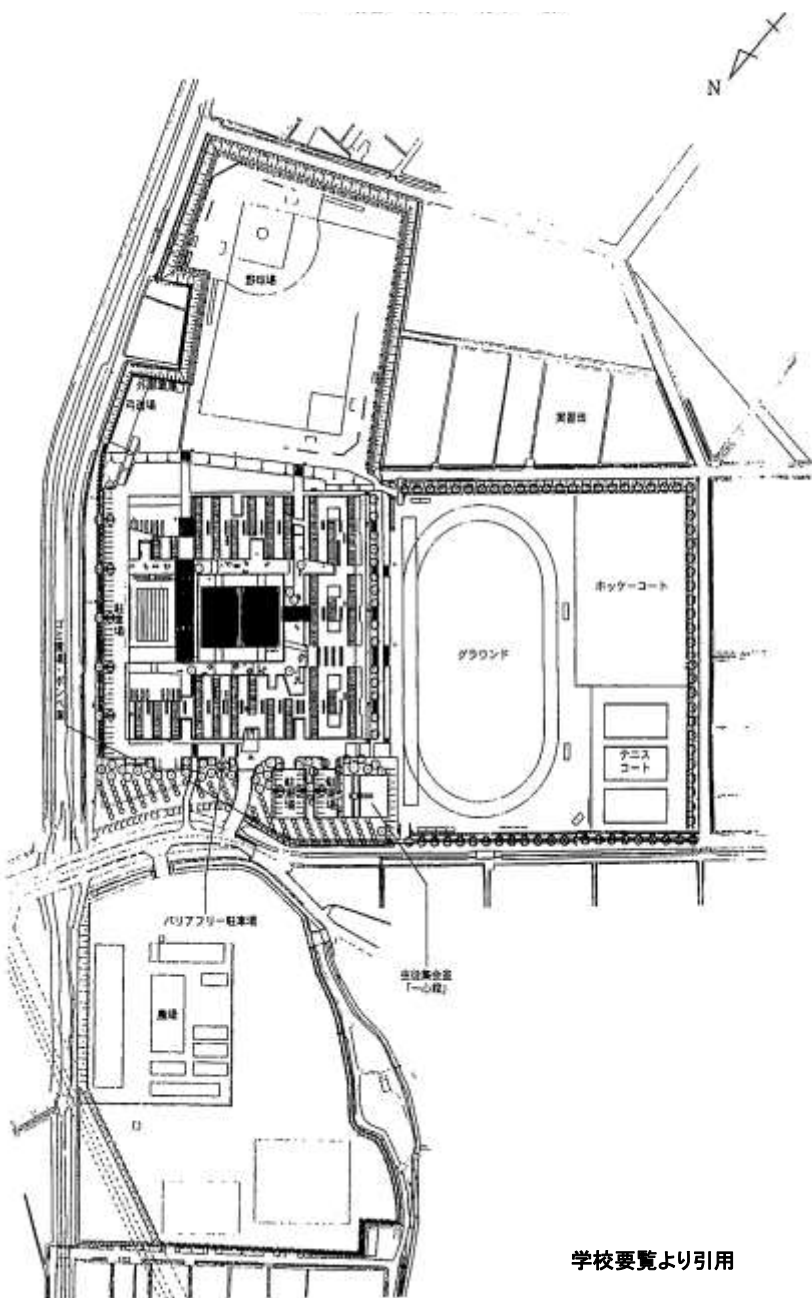
<全日制>

校長	教頭	主幹教諭	教諭	講師	養護教諭	実習助手	事務職員	学校司書	技師	非常勤講師	英語助手	計
1	1	1	43	2	2	5	5	1	3	11	1	76

【沿革】

宮城県栗原農業高等学校と宮城県若柳高等学校を統合し、平成13年に総合学科の宮城県迫桜高等学校として開校。高校の開校に合わせ校舎等を整備。

【配置図】



学校要覧より引用

【特色】

・単位制、総合学科の教育課程に基づく特色ある学校づくり

一人一人の進路に応じた科目選択が可能であり、科目選択の目安として6系列(人文国際、自然科学、福祉教養、情報科学、エンジニアリング、アグリビジネス)を設定し、個々の学生ニーズに合わせて教育を展開。系列を超えた科目選択も可能としている。

自ら科目を選択することで、主体的に学習に取り組む環境を整備。

・総合学科に合わせた特色ある施設

異なる系列の生徒たちが相互に刺激を与えることができるよう大きな棟の建物として整備。生徒の移動の負担軽減のためロッカーの設置やフレキシブルラーニングエリアを確保。開設科目に柔軟に対応できるよう課題研究室等を整備。

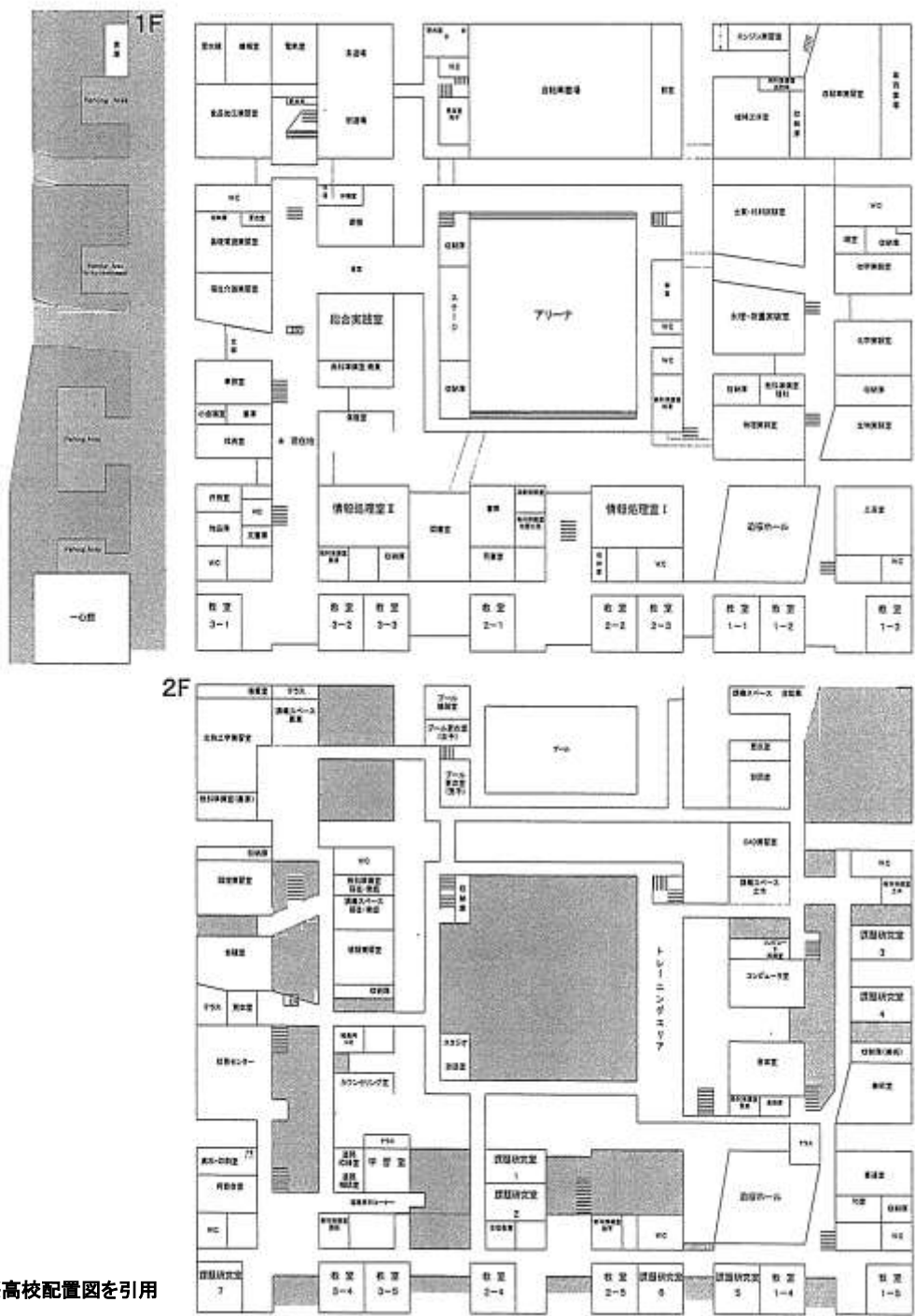
・開かれた学校づくり

学校、家庭、地域社会が一体となって生徒を育てるため、開放講座等における社会人講師の活用や学校図書館や食堂の地域開放等を実施。



外観(教室側)

【平面図】



追桜高校配置図を引用

【施設の状況】

(校舎)

- ・普通教室や特別教室等は、用途に応じてゾーンで配置されている。
- ・総合学科である特色を生かし、生徒が自由に動き回ることができる回遊性が確保されるとともに、多目的かつフレキシブルに利用できるよう設計の工夫がなされている。
- ・これまでの校舎の概念にとらわれない斬新なデザインとなっている。
- ・生徒も校舎に愛着を感じており、学校生活の中心に校舎があるような雰囲気となっている。
- ・系列ごとの実習施設には、講義スペースと実習スペースが整備されており、課題研究に取り組みやすい学習環境となっている。また、他の系列の雰囲気がわかるよう工夫された空間配置となっている。



回遊性のある廊下



講義スペースと隣接した
福祉介護実習室



講義スペースと隣接した
生物工学実習室

【施設の状況】

(校舎)

- ・総合学科では選択授業が多く、生徒は教室移動が多くなるが、居場所づくりのため、校舎内の各所に「フレキシブル・ラーニング・エリア」が整備され、デザイン性の高い机・椅子、ベンチが設置されている。
- ・このエリアは、単なる居場所づくりだけでなく、生徒同士、あるいは、生徒と教員のコミュニケーションの場となり、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すために非常に有効である。
- ・壁面にガラスが多用されており、自然光を十分に取り入れることができ、明るい雰囲気となっているが、清掃等の維持管理や断熱性には課題があると感じた。
- ・整備当初は普通教室で移動式黒板を活用していたが、その後、新たに黒板を設置しレイアウトを変更しており当初のコンセプトがうまく機能しなかった部分もあると感じた。
- ・コンクリート打放しの壁やFRPの外壁、屋内外の固定家具、ウッドデッキ等、デザインは未来的であったが、経年劣化が進んでいる部分もあり、維持管理に難しさを感じられる。



フレキシブル・ラーニング・エリア



中庭に配置されたベンチ



ガラスが多用され自然採光が十分取り入れられた教室



自然採光だけでも十分明るい体育館

【施設の状況】

(校舎)

- ・平成30年度に普通教室にプロジェクターが設置されWi-Fi環境も整備されている。生徒用のタブレット端末は45台導入されており、今後の更なる充実が期待される。
- ・生徒指導室とは別にカウンセリング室が整備されており、特別な配慮を要する生徒への対応も可能となっている。
- ・廊下にロッカーが整備されており、生徒の移動に関する負担軽減への配慮がなされている。また、普通教室に個人の荷物を置かないため、柔軟に教室の活用が可能となっている。
- ・2階建ての校舎であるが、エレベーターが設置されておりバリアフリーに対応した整備がなされている。



プロジェクターの活用状況



落ち着いた雰囲気のカウンセリング
ルーム



廊下に整備されたロッカーとベンチ



▲普通教室(壁はガラス張り)



▲ロッカースペース



▲図書室



▲図書室(外から)



▲機械実習室



▲機械工作室



▲生物学実習室



▲校務センター(職員室)



▲食堂



▲廊下に設置されたベンチ



▲ウッドデッキテラス



▲フレキシブルラーニングエリア



▲アリーナ



▲アリーナ入口



▲階段



▲階段・中廊下



▲廊下



▲中庭



▲迫桜ホール

9. 立命館中学校・高等学校

全日制課程(高校28クラス):普通科

【所在地】 京都府長岡京市調子1丁目1-1

【生徒数】 1022名(5月1日現在・高校)

【出身中学別生徒数】

中高一貫校

(通学地域

府内:約6割、府外:約4割)

【進路】 平成30年度卒業

進学 318名(附属大学 252名)(他大学66名)

就職 0名

その他 28名

【職員数】

校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭 (助教含)	養護 教諭	講師	非常勤 講師	実習 助手	学校 司書	事務 長	校医	小計
1	2	1	2	50	1	13	27	5	1	1	1	105

※警備、食堂等はそれぞれ警備会社や生協に委託

【沿革】

明治33年京都法政学校を設立、明治38年清和普通学校を設立、改称及び複数の中学校の設置を経て昭和23年学制改革により立命館高等学校を設置。平成14年に文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールに指定を受け、現在4期目、また、平成26年にスーパーグローバルハイスクールに指定を受ける。平成26年に新キャンパス完成。生徒の課題研究などの発表の場、探究の場としてふさわしい施設・設備を展開している。

【校地平面図】



【特色】

・多様な進路を開く一貫教育

小・中・高12年間の一貫教育による確かな学力と豊かな人間性、自立・貢献の精神を育てる教育を展開。小学1年生から4年生までをファーストステージ、小学5年生から中学2年生までをセカンドステージ、中学3年生から高校3年生までをサードステージとし、その発達段階に応じて4年間ごとにカリキュラムの区切りを設け、将来の進路目標を立て、夢実現に向けて自ら学ぶ姿勢を育む。

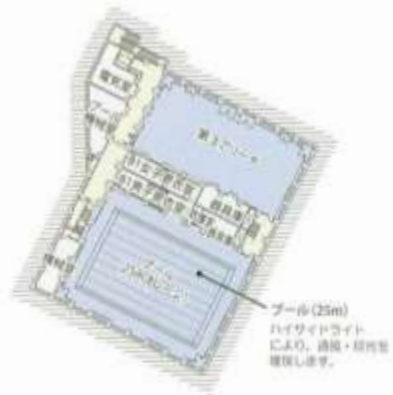
・世界へ通じる人、未来を手にする人

「社会につながる」、「国際的視野で考える」こと念頭にグローバルな視点を持ち、新しい時代を自らの力で切り開く、未来に貢献する人材を育成。高校2、3年生では、将来につながる4つのコースCE(文社)・SS(理数)・GL(国際)・MS(文理特進)を展開。CE・SS・GLコースでは「自ら課題を設定」し、「自ら仮説を立てて」、調査研究に取り組み、そのプロセスや成果を発表する「課題研究」を行う。



校舎

【平面図】

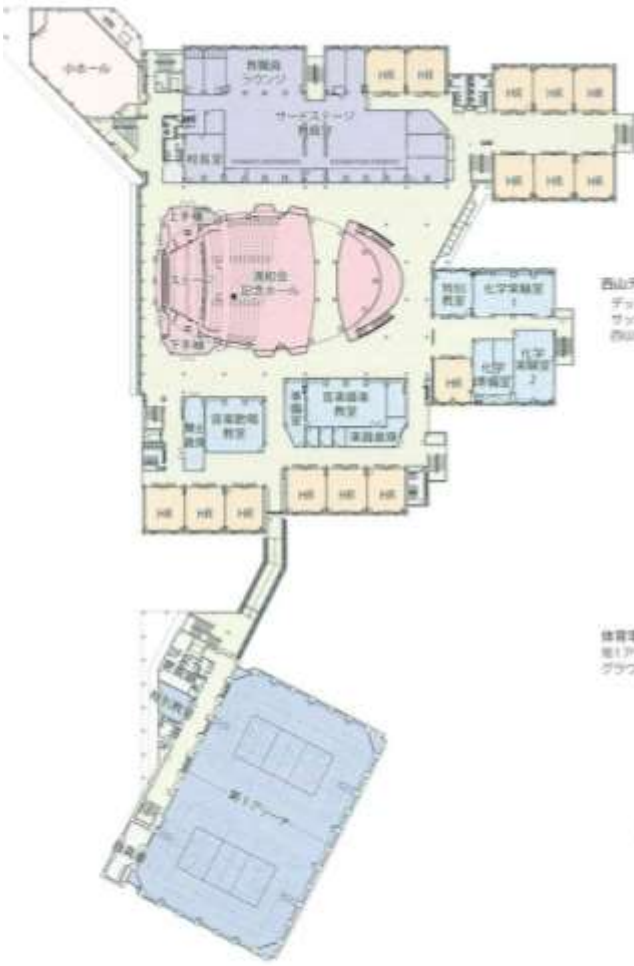


B1F



1F

【平面図】



2F

西山デッキ
デッキからは、
サッカーグラウンド越しに
西山の景観とことが出来ます。

体育準備室
第1アリーナの脇にある。
グラウンドを見渡せる場所に設けています。

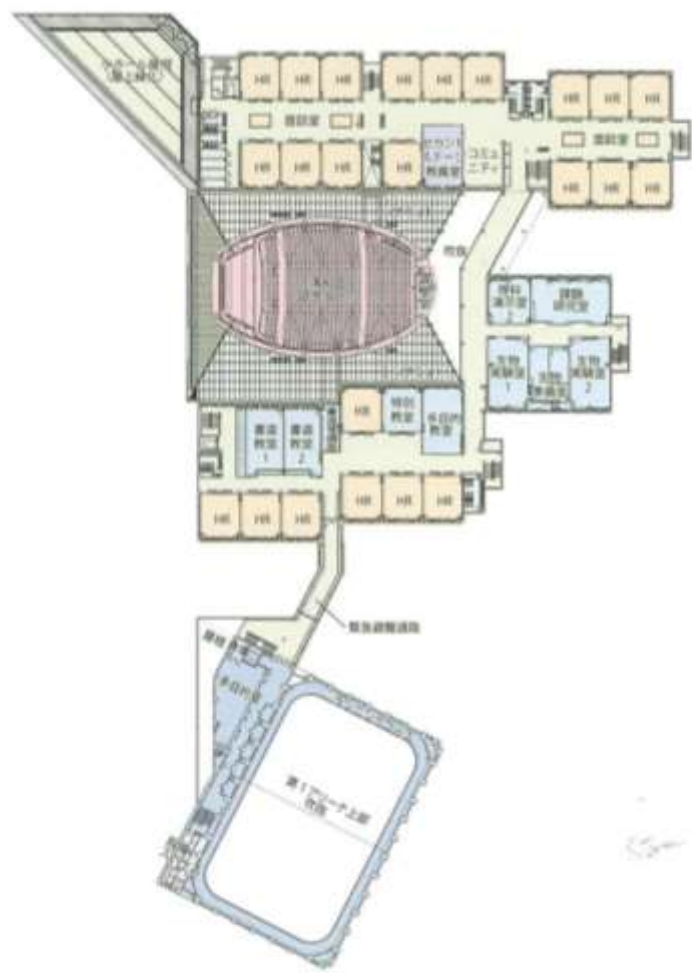


3F

吹雪
アトリウム中央の吹雪設備に
よって、2000人の生徒が学居
会場の一体感を演出します。

サイエンスデッキ
理科をテーマにした
父兄の講座が設けられています。

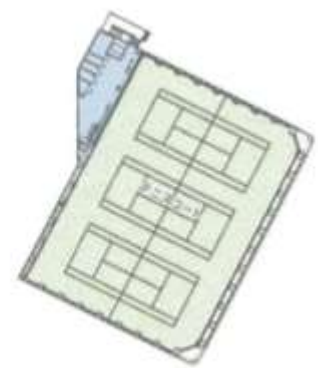
【平面図】



4F



5F



6F

【施設の状況】

(校舎)

- ・アトリウム空間はトップライトによる自然光を取り入れ明るく開放的である。
- ・地場産の竹を中高生が伐採し、加工したものをプレゼンテーションルームやエントランスホールの天井に使用している。
- ・カーペット敷きを採用しており、大きな汚れが生じた際はパネルのようにその部分だけを張り替えることができる。
- ・アトリウムの自然換気や屋上緑化、太陽光発電など環境に配慮した施設整備を行っている。
- ・生徒の避難時に使用する備蓄品を収めた防災倉庫を整備している。
- ・最寄駅から学校までの通学路が住宅地の狭い道路なので、警備員を常時雇用して対応している。



【施設の状況】

(校舎)

- ・アトリウムに面した各フロアのオープンスペースにプロジェクターを整備しており、見せあうことを意識した発表スペースとしている。
- ・学校の核となるメディアセンターのクリエイティブエリアには生徒が自由に使えるパソコンを整備している。
- ・プレゼンテーション教室やアクティブラーニング活動を行うための教室があり、教科の枠に収まらない活動や創造的な活動のための空間が用意されている。
- ・作業中のまま、すべてを片づける必要のない実験室(課題研究室)があり、生徒がそれぞれの実験を主体的に行っている。
- ・カフェテリアは放課後も開放しており、生徒が自由に学習・談話に使用している。

メディアセンター内のクリエイティブエリア
パソコンが整備されており、放課後は生徒でにぎわう



プロジェクター整備された
オープンスペース



アクティブラーニング活動
を行うための教室



生徒たちが探究活動に使う
実験室(課題研究室)



カフェテリア



【施設の状況】

(校舎)

- ・職員室は指導の観点から複数学年で構成される各ステージのフロアごとに設置、また、全教員が一堂に会せるスペースも整備している。
- ・各教科の準備室のデスクは共用であり、個人のデスクは職員室に配置している。
- ・一部の教員室にはソファや自販機の備えられた教員ラウンジ、教材作成等で使用できるPCを備えたコーナーなどが整備されている。
- ・面談室が教室の各ユニットに分散して配置されている。
- ・伝統教育や国際交流に活用できる、和室(日本文化室)を整備。





▲校舎正面



▲玄関ホール



▲クリエイティブエリア
(メディアセンター)



▲普通教室前廊下



▲普通教室前の生徒用
ロッカー



▲普通教室①



▲普通教室②



▲普通教室フロアのオー
プンスペース



▲廊下に設置された面
談室



▲理科室



▲理科室の教員机に一
体化した収納棚



▲社会科教室



▲アクティブラーニング
ラボ



▲メディアラボ



▲小ホール



▲メディアセンター(図書室)



▲MSコース自習室



▲第1アリーナ



▲第1アリーナ上部ラン
ニングスペース



▲第3アリーナ(柔道等)



▲武道場



▲第2アリーナ(卓球等)



▲屋内プール



▲屋上テニスコート



▲清和会記念ホール



▲職員室



▲職員ロッカー(奥が更衣室)



▲カフェテリア



▲日本文化室



▲和室には炉が設けられている。



▲教室棟とアリーナ棟には避難やバリアフリーに配慮し渡り廊下を複数階に設置。



▲トイレ

10. 追手門学院高等学校

高校全日制課程(12クラス×3学年):普通科

【所在地】 大阪府茨木市太田東芝町1-1

【生徒数】 1,319名(男子679名、女子640名・高校) 2019年5月1日現在

【出身中学別生徒数】

中高一貫校

(府内:約98%、府外:約2%)

【進路】

進学 349名

就職 2名

その他 57名

【職員数】 ※中・高合算値

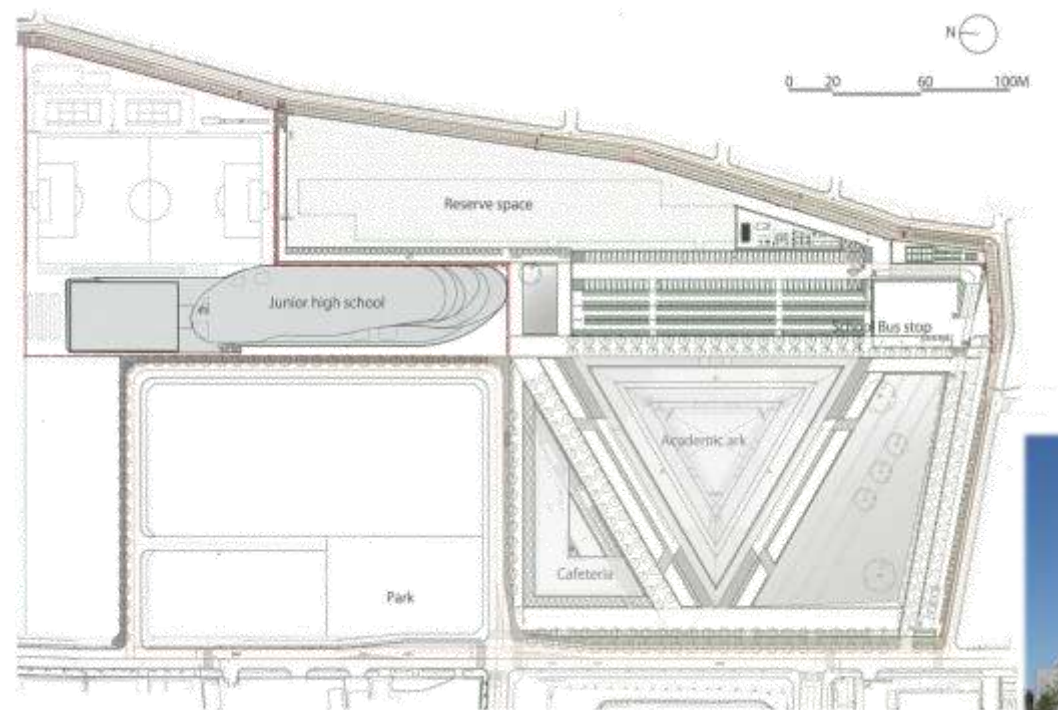
校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	講師	非常勤講師	実習助手	学校司書	事務長	主任	主任主事	小計
1	1	1	3	48	1	25	45	0	0	1	0	5	131

校医	歯科医	薬剤師	警備員	炊事員	小計	合計
1	1	1	4	0	7	138

【沿革】

明治21年に追手門学院小学校開設、昭和22年に追手門学院中学校開設、昭和25年に追手門学院高等学部開設。平成31年に新校舎へ全面移転。新校舎は、これまでの学校のイメージを抜本的に見直した次世代型教育の拠点として「Smart Palette」「いつでも、どこでも学べる」をテーマに建設。

【校地平面図】



【特色】

●多様な学びの場の創出

「教育観」・「学習観」の転換という「考え方」(理念・方針)のもと、「多様な力」の育成に必要な3つの学び(「個別型」「協働型」「プロジェクト型」の融合)という方法論を実践する場の創出。

●先生が「教える教室」から生徒が「学ぶスペース」へ(交流の場+成長の場)

可動式の壁に象徴されるように、「学び」に応じてアレンジできる「学びのスペース」。

校舎すべてが学びの場、「学習環境一体型」校舎である。

●ティチャーステーション(先生は生徒を見守るファシリテーター)

生徒の視点に立った安心、安全な「生活の場」の設置。生徒と教師との交流の場になっている。

●「脱図書室」×「電子図書システム」

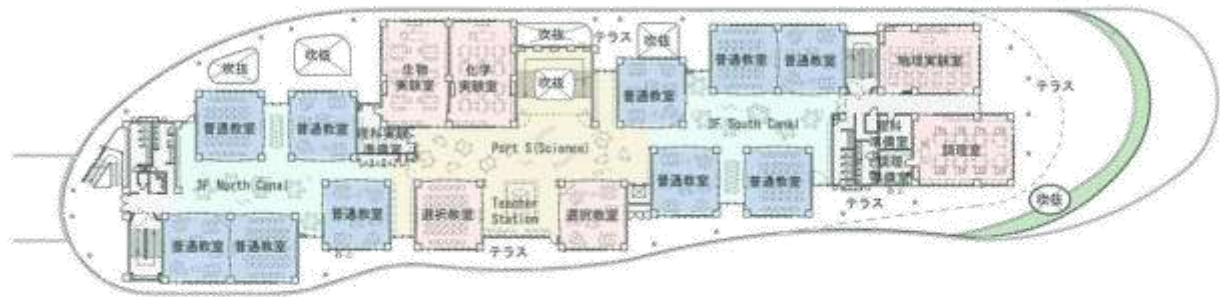
図書を各階ごとにテーマを決めて分散配置しているほか、電子図書システムを導入することにより、生徒たちが日常的に身近に本と接し、主体的・能動的な姿勢をもつことを目的としている。

●BYODによるICT活用教育にも熱心に取り組んでいる。

【平面図】



4F

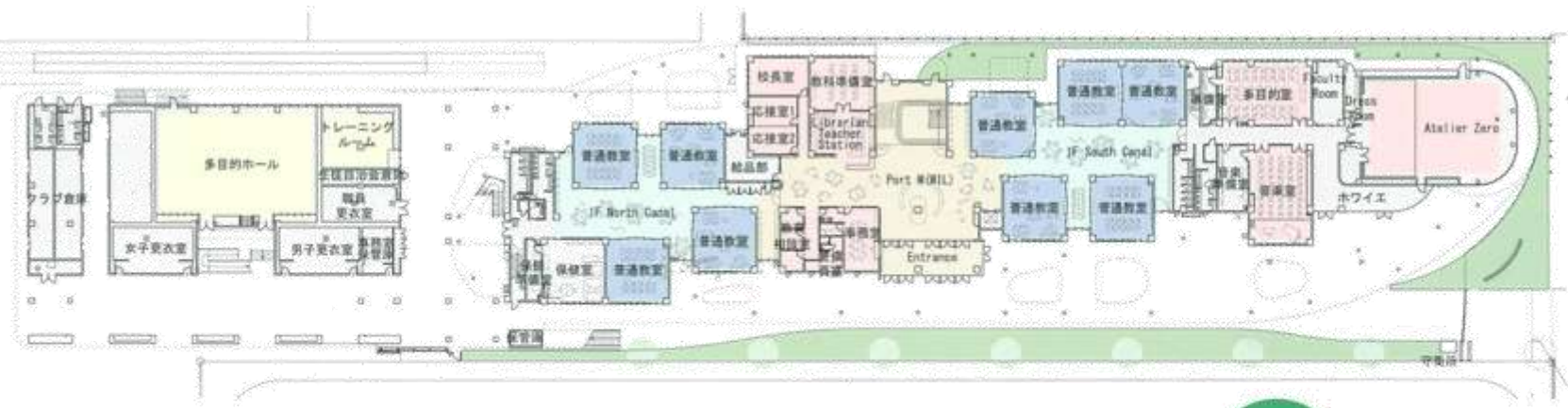


3F

【平面図】



2F



1F

【施設の状況】

(校舎)

- ・設計業者と学校側の情報共有・意思疎通がしっかり図られている。
- ・校舎すべてを学びの空間とし、「脱教室」「脱図書館」「脱職員室」を掲げ、「PORT」と「CANAL」の領域を作っている。

【PORT】選択教室・特別教室・ティーチャーステーション及び関連する図書を配置(家具はキャスター付き)したオープンスペースとで構成

【CANAL】普通教室とオープンスペースとで構成し、間仕切り壁・机・椅子をアレンジすることで2教室合併や廊下との一体化、5クラス合同による学び合いも可能。(スクリーン・プロジェクターは移動式)

- ・すべての生徒が通る1階のエントランスには、生徒が様々なことに興味を持てるように、大型スクリーン(2台)と書籍を配架。
- ・階段室やホールの壁等をホワイトボードを貼っており、書き込みができる。壁や階段には授業での生徒の成果物を掲示・展示している。



PORT 曲線を描く机が配置され、壁には本が並ぶ



階段にはホワイトボードと掲示物



エントランス前 書架

【施設の状況】

(校舎)

- ・取り外し可能な教室の壁、可動式の机・椅子を整備しており、フロア全体をアレンジし、様々な学びが展開できるような施設環境を整備している。
- ・壁を一面ホワイトボードにした教室を設けており、自由な場所に書き込むことができ、より活発なグループ活動を展開している。また、ホワイトボードと壁の境目がないため、プロジェクターの設置場所が自由になり、効果的な活用が可能。
- ・各教室のプロジェクターは天井吊り下げ型ではなく、超短焦点の可動式であり、様々な教室レイアウトに対応できていた。
- ・様々な教室レイアウトに対応するためには生徒用の荷物を収納する空間の検討やクラウド化による荷物の軽減が重要であり、生徒用のロッカーを設置しているものの、収納スペースの不足が見られた。

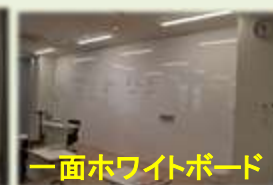
CANAL 授業中も使用される机や、移動式の小さな本棚が廊下に配置 廊下も活用し、様々な形態で授業を行う



可動書架



ロッカー



一面ホワイトボード



移動式長焦焦点
プロジェクター

【施設の状況】

(校舎)

- ・職員室は職員それぞれのロッカーと共有の長机を設置したフリーアドレス制であり、学年の枠を超えた対話や非常勤職員との交流が行いやすい環境づくりを行っている。
- ・各学年フロアのPORTエリアに設けているティーチャーステーションは、オープンな作りであり、生徒が気軽に質問ができる環境となっている。

(運動施設環境)

- ・人工芝のグラウンドがあり、雨天時に利用しても泥が校舎に持ち込まれない一方、石灰でラインを引くことができないので多目的な利用について課題がある。
- ・事故予防として、体育館の床はクッション性があり、ささくれ等の心配のないビニル素材を使用している。





▲エントランスホールの
書架



▲階段吹き抜け



▲廊下の書架・パネル



▲PORT廊下



▲CANAL廊下



▲CANAL書架とエレベーター



▲CANAL廊下



▲CANAL廊下



▲普通教室



▲普通教室



▲音楽室



▲調理室



▲多目的室



▲スタジオ(アトリエゼロ)



▲テラス
(プレゼンスペースにもなる)



▲テラス
(プレゼンスペースにもなる)



▲フリーアドレスの職員室



▲ティーチャーステーション



▲体育館



▲グラウンド



▲生徒用ロッカー



▲トイレ

11. 京都市立堀川高等学校

全日制課程：普通科・人間探究科・自然探究科

【所在地】 本館： 京都府中京区堀川通 錦小路上る四坊堀川町622-2
 本能館： 京都市中京区蛸薬師通油小路東入る元本能寺南町346

【生徒数】 734名（男子362名、女子372名）

【出身中学別生徒数】

京都市内 410名

京都府内 231名

その他（府外・国・私） 93名

【進路】

ほぼ全員が大学へ進学（浪人含む）

【職員数】

校長	副校長	教頭	事務長	教諭	ALT	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	実習助手	事務職員
1	1	1	1	51	3	1	18	9	5	6
校務支援員	育成支援員	管理用務員	学校医薬剤師	カウンセラー	合計					
2	1	4	6	1	111					

【沿革】

明治41年京都市立堀川高等女学校として創立。昭和23年京都市立堀川高等学校として開校。平成11年 新校舎竣工・移転。同年、人間探究科と自然探究科を設置。平成14年SSH指定校。以後現在まで継続して指定校となっている。平成26年SGH指定校。

【校地配置図】



【特色】

・探究基礎

研究活動を通して、多くの経験を積むことを重視。研究に必須の「言語能力」を伸ばすため、生徒間・生徒と指導者間の双方向コミュニケーションを重視。

一部授業の運営を生徒に任せるなど生徒の自主性を重んじている。

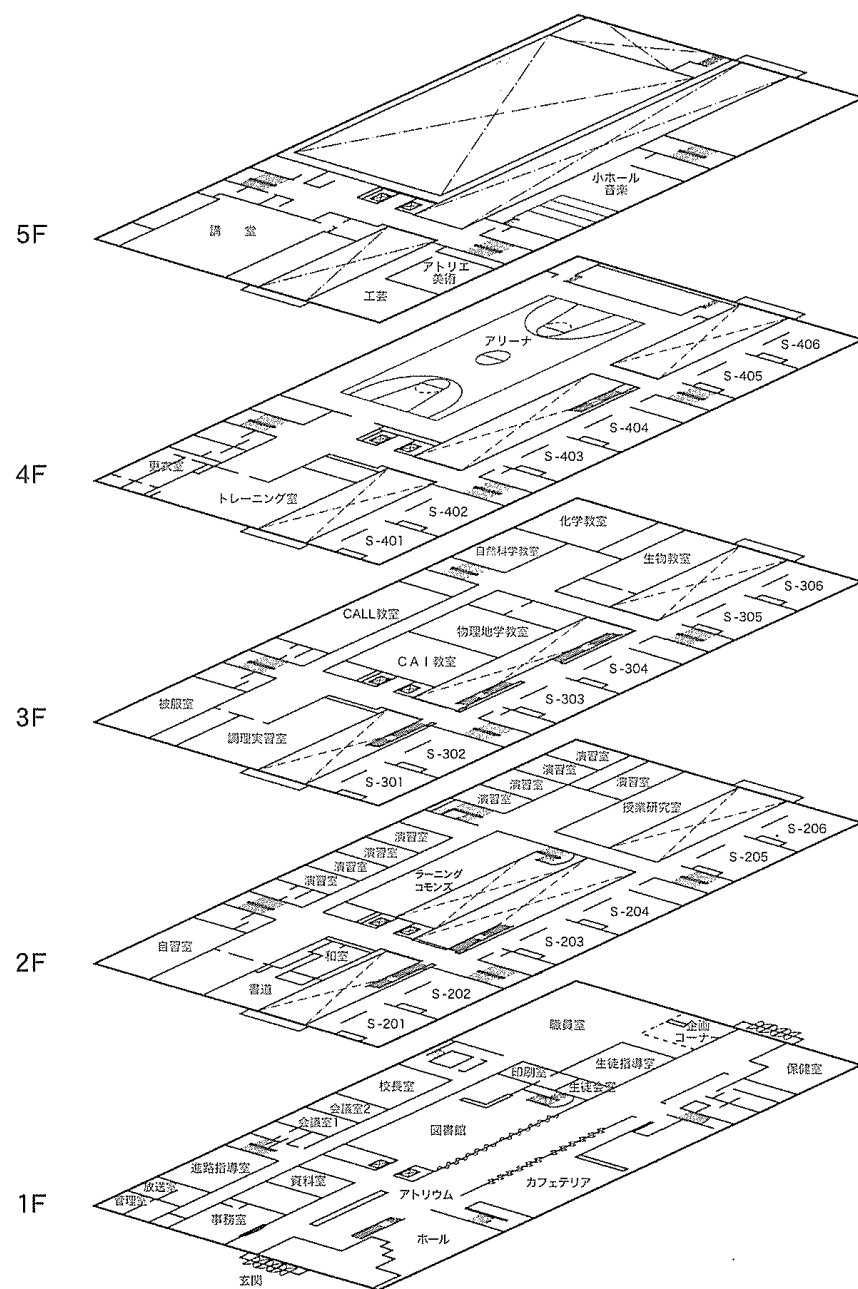
・海外研修

探究活動の一環として海外研修を実施。約一年に及ぶ準備期間を経て、現地研修を行う。研修内容は生徒に委ねられており、準備期間を通して、個別具体の研修計画をたてていく。

・リーダー・スタッフ活動

生徒が主となり作り上げる学校説明会におけるリーダー・スタッフ活動や、中学生に探究活動の体験を促進する「探究道場」におけるスタッフ活動などを通して、目的を共有する集団の一員として運営に関わることで、社会性・協調性を育成。

【校内案内図(本館)】



【施設の状況】

- ・校舎の改築にあたり、平成7～9年にかけて「京都市立高等学校21世紀構想委員会」を設置し、目指すべき学校像や教育課程、教育環境等について検討し答申がまとめられた。答申を踏まえ、現在の校舎の設計がなされた。
- ・小規模な改修を随時行うなど、京都市教育委員会が学校の実態をよく把握し、現場と一体となって計画的に校舎整備がなされている。
- ・「自立する18歳の育成」という学校目標の実現に向け、探究学習に力を入れている。アリーナ、アトリウム、講堂、ラーニングコモンズといった多数が活動できる空間があり、発表活動が行いやすい、または少ない準備で行えるようになっていた。
- ・施設の活用を生徒自身が企画運営している。
- ・実験室、演習室といった探究を深める活動ができる施設なども充実。



【施設の状況】

- ・演習室の一つはすべての壁がホワイトボードになっており、どの場所でも生徒が集まって議論を深めるなどの協働学習が行いやすくする工夫がされていた。
- ・図書室の2階に設置されたラーニングコモンズは、生徒の協働的な学びの場として活用されており、生徒の探究活動に大きく貢献していた。
- ・教室に生徒の持ち物を置く収納スペースが少なく、机周りに鞆が置かれていた。
- ・パソコンルームも含め、ICT関係の更新については今後の課題。
- ・歴史があり、地域の学校として存在している。



【施設の状況】

- ・閉校となった京都市立本能小学校の敷地内に地域の方と堀川高校が活用できる施設(理科実験室)を建設。(特別養護老人ホームとの複合化)
- ・SSHとして活動するにあたり必要な学習スペースを確保するために、旧小学校を活用した本能学舎は、市立高校の強みを生かした新しいタイプの学習施設。
- ・本館との距離はそれほど離れている訳ではないが、車の往来もある一般道を通る必要があります、通常の休み時間で教室を移動することは困難。また交通事故等の不安はある。
- ・緊急時の対応、薬品庫・備品の管理などを考えると、少人数の教員での対応には工夫が必要。
- ・地域との交流の場として活用する取組をもっと充実させることが可能。





▲昇降口



▲アトリウム



▲教室



▲広い廊下にはホワイトボードがおかれている



▲演習室



▲ラーニング・コモンズ



▲講堂



▲パソコンルーム



▲トレーニング室



▲アリーナ



▲カフェテリア



▲実験室



▲本能館中庭



▲プレゼンテーション
ルーム



▲本能ホール



▲実験室